

2019 年度

(平成 31 年度, 令和元年度)

聖泉大学看護学部
年次報告書

領域・委員会

目次

1. 領域活動報告

1-1. 基礎看護学領域	1
1-2. 成人看護学領域	3
1-3. 老年看護学領域	5
1-4. 母性看護学領域	7
1-5. 小児看護学領域	9
1-6. 精神看護学領域	11
1-7. 地域看護学領域	13
1-8. 在宅看護学領域	15

2. 委員会活動報告

2-1. 教務委員会	17
2-2. 学生委員会	19
2-3. 国家試験対策委員会	21
2-4. 実習調整委員会	23
2-5. FD委員会	25
2-6. 研究促進委員会	27
2-7. 学術誌編集委員会	29
2-8. 広報委員会	31
2-9. キャリアアップセンター	33
2-10. 技術項目検討委員会	35

1 . 領域活動報告

1-1. 基礎看護学領域

1. 構成メンバー

小山敦代教授，西山ゆかり教授，小林菜穂子講師，井之口文月講師，今井恵助教，平野杏奈助教，高島留美助手，川橋けい子助手

2. 教育活動

1年：「基礎看護論Ⅰ」「生活援助論」「生活援助技術論Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅰ」「生活援助論」「生活援助技術論Ⅰ」では、単元ごとに演習計画立案、グループ共有・実施・カンファレンスでの学びの分かち合いを行った。また文献で最新の技術を調べて演習に望むなど反転授業を行い学生間で教えあう授業を組み立てた。最後に複合演習として事例を用い、発表とし、チーム作りを大切に演習を組み立てた。「基礎看護学実習Ⅰ」では全員が目標達成できた。

2年：「生活援助技術論Ⅱ」「看護過程論」「フィジカルアセスメント」「基礎看護学実習Ⅱ」実習前に地域の住民の方々に模擬患者になって頂き、実際に「看護過程論」で立案した看護計画および援助計画を実施・評価までを行った。更に文献の活用と反転授業を取り入れて、学生間で教え合う授業展開を行った。看護過程の情報収集の1つとして「フィジカルアセスメント」を位置づけて、4科目を連動させた。「基礎看護学実習Ⅱ」では全員が目標達成することができた。

3-4年：「卒業研究」、「地域統合実習」「国家試験対策講座」「地域統合実習」は、チーム医療実習を行った。「卒業研究」は、研究計画書の立案までをまとめ抄録集とした。国家試験対策は、基礎ゼミ対策講義と個別のサポートを行った。

3. 研究活動

<著書>

- 1) 小山敦代：看護領域における身心技法，看護の本質と特性，渡邊勝之・広井良典編著：医学・看護・福祉原論—いのちに基づいた医療&健康—，158-162，ピニング・ネット・プレス，2019。
- 2) 西山ゆかり：看護領域における身心技法，看護における触れる技と癒し，渡邊勝之・広井良典編著：医学・看護・福祉原論—いのちに基づいた医療&健康—，163-168，ピニング・ネット・プレス，2019。
- 3) 高島留美：城ヶ端初子（編著）ナイチンゲールの『病院覚え書』から看護の視点で病院を見直そう！，サンライズ出版，2020。

<論文>

- 1) 小坂橋喜久代，柳奈津子，近藤由香，岡田朱民，内田美枝子，箕輪千佳，桐山勝枝，荒木大治，定方美恵子，小山敦代，荒川晶子：リラクゼーションを基礎教育にどのように位置づけるか，学ぶ・活用する（支援する），看護教育，60（10），52-57，2019。
- 2) 佐藤裕見子，今西二郎，岸田聡子，田中智美，山本敦子，小山敦代，村上久恵：高齢期の睡眠障害に対するリラクゼーション法の効果—睡眠障害教育と組み合わせた呼吸法及び筋弛緩法による地域住民への介入—，日本統合医療学会誌，12（1.2），23-31，日本統合医療学会，2019。
- 3) 黒田久美子，西山ゆかり，三谷理恵，和住淑子，室屋和子，鈴木康美，杉原多可子：「新人看護師教育担当者能力自己評価票」（SS-CNE）Ver.1の信頼性・妥当性の検証（原著論文），日本看護管理学会誌，23（1），19-27，2019。
- 4) 井内伸栄，上田博之，小林菜穂子，藪内順子：ボディメカニクス自己学習用 e-Learning 教材の試験運用と評価，大阪信愛学院短期大学紀要 53集：B1，1-5，2019。
- 5) 上田博之，豊島めぐみ，田中希穂，石井あゆみ，小林菜穂子，津田右子：看護系短期大学入学生の職業的アイデンティティ形成を促す入学前教育の試みと有効性，大阪信愛学院短期大学紀要，第53集，1-7，2019。
- 6) Nimura T, Itoh T, Hagio H, Hayashi T, Di Donato V, Takeuchi M, Itoh T, Inoguchi F, Sato

年次報告書（2019年）領域

Y, Yamamoto N, Katsuyama Y, Del Bene F, Shimizu T, Hibi M : Role of Reelin in cell positioning in the cerebellum and the cerebellum-like structure in zebrafish, Dev Biol. 2019 Nov 15;455(2):393-408. doi: 10.1016/j.ydbio.2019.07.010. Epub 2019 Jul 16.

- 7) 桶河華代, 高島留美, 松井克奈子, 奥田のり美, 千田昌子, 城ヶ端初子: ナイチンゲールの看護思想を实践に活かすための研究会の取り組みと課題「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」13回~19回例会を中心に(解説), 聖泉看護学研究 8巻, 59-65, 2019.
- 8) 桶河華代, 高島留美, 城ヶ端初子: 『病院覚え書』を読み解く「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の歩み(解説), 看護展望, 44(12), 1192-1197, 2019.

<学会発表>

- 1) 西山ゆかり, 岡田朱民, 小山敦代: 看護における補完代替医療/療法の概念化に関する研究(第2報), 第23回日本統合医療学会, 鹿児島, 2019.1
- 2) 高島留美, 小山敦代: 病棟看護管理者による臨地実習に関するスタッフ看護師への支援, 日本看護管理学会学術集会, 108, 新潟, 2019.8.
- 3) 高島留美, 桶河華代, 松井克奈子, 後藤直樹, 岸本沙希, 出石万紀子: 報告『病院覚え書』にみるナイチンゲール看護と現代看護の一考察-「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」例会参加者の議論より-, 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会, 48, 滋賀, 2020.3.
- 4) 川嶋元子, 桶河華代, 磯邊厚子, 今井恵, 西垣里志, 森本喜代美: 高齢者と学生の地域内交流プロジェクト-高齢者へのインタビューを通じて-, 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会抄録集, 41, 滋賀, 2020.3.
- 5) 桶河華代, 高島留美, 奥田のり美, 千田昌子, 松井克奈子: ナイチンゲールの看護思想を实践に活かすための研究会の取り組みと課題「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の参加者の学びから, 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会抄録集, 41, 滋賀, 2020.3.
- 6) 桶河華代, 國松秀美, 高島留美, 奥田のり美, 千田昌子, 吉永典子: 報告 ナイチンゲール看護講演会に参加した看護職の学びと課題-「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の歩み-, 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会, 47, 滋賀, 2020.3.

<助成金による研究活動>

- 1) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 平野杏奈, 高島留美: 基礎看護学実習におけるコミュニケーション能力育成に向けたルーブリック評価の取り組み, 聖泉大学研究促進助成金.
- 2) 川嶋元子, 小野ミツ, 今井恵: 中規模病院の外来看護師における在宅療養支援の看護実践能力自己評価尺度の開発, 科学研究費(基盤研究C)2019-2020.

4. 地域貢献

- 1) 小山敦代: 国立病院機構保健師助産師看護師実習指導者講習会(講師), 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会会長.
- 2) 西山ゆかり: 滋賀県看護協会新人看護職員研修責任者研修(講師). 滋賀県看護協会実習指導者講習会(講師). 大阪府市立病院協会新人看護師教育責任者研修(講師). 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会事務局長.
- 3) 高島留美: ナイチンゲール看護研究会企画運営.
- 4) 小林菜穂子, 井之口文月, 今井恵, 平野杏奈, 高島留美, 川橋けい子: 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会実行委員.
- 5) 磯邊厚子, 桶河華代, 川嶋元子, 今井恵, 西垣里志, 森本喜代美: 聖泉版・近江楽座, 「高齢者と看護学生の地域内交流」地域活性化プロジェクト.

1-2. 成人看護学領域

1. 構成メンバー

緒方昭子教授，中島真由美准教授，山根加奈子助教，馬場好恵助手，村田真由子助手

2. 教育活動

1年：「成人看護論」成人期にある人の＜身体・心理・社会的特徴、健康問題など＞について、＜各種理論や概念＞について2回のグループワークと発表会を行った。講義スタート時の自己評価・達成度目標用紙を用いて、最終講義時に自己目標ならびに学習達成度を評価し、おおむね達成できていた。

2年：「成人看護技術論Ⅰ」慢性的な健康問題を持つ対象を理解する基本的な考え方を理解する為、講義と演習を行った。代表的な疾患を通して、事例に基づきアセスメントする課題を課した。学習目標は概ね達成できた。

「成人看護技術論Ⅱ」急性期疾患を持つ患者の看護について、毎回の事前学習課題を課した。シュミレーターの活用と演習による患者体験により、手術後の患者の理解を深め、周術期の看護の理解に努め、学習目標はおおむね達成できた。

3年：「成人看護技術論Ⅲ」2事例をもとに実習を見据えたPBLを行った。慢性期は急性心筋梗塞の事例を通して看護過程の展開を行った。個人学習とグループ学習を行うことで、個人で事例について考えた内容をグループワークに活かせるよう授業を配置した。急性期は、胃がんの事例を用いて看護過程の展開を行い、毎回の授業でグループでの学びを発表することで、知識の定着を目指した。学習目標は概ね達成できた。

「成人看護学実習（急性期）」「成人看護学実習（慢性期）」事前学習の強化、ならびに実習初日の学内実習において演習をとり入れて理解を深めた。急性期実習においては、手術直後の観察演習を用いたことで実習での実践につながる部分もあった。記録については、グループ担当教員が必要な学生に個別指導を行い目標達成に近づく支援を行い学習到達目標は概ね達成できた。

「ターミナルケア論」人生の週末にある対象の身体的・心理社会的特徴を理解し、その生活を支援することについて考えることができることを目標として講義、演習を行った。また、各学生が自分自身で考えを深めることができることを重視し、レポート課題を課した。倫理的課題や価値観の多様性について、正解のないことを感じ考える機会となるよう演習、レポート課題を課し、学習到達目標は概ね達成できた。

4年：卒業研究、地域統合実習、看護師国家試験対策

ゼミ生13名に、看護師国家試験対策講座を年間4回開催し、更に個別ゼミを実施した。卒業研究および地域統合実習では、学生のテーマに沿って個別的な教育指導を行った。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 中島真由美：外来通院する働く世代のがん患者の日常生活上の困難に関する文献レビュー，聖泉看護学研究，Vol.9，51-58
- 2) 山根加奈子，中島真由美：看護師が行う心不全患者の終末期に至る局面の判断と実践，聖泉看

年次報告書（2019年）領域

護学研究, Vol.9, 35-42

- 3) 馬場好恵, 中島真由美: 看護系大学の臨地実習において実習指導者が実践している看護教員との連携, 聖泉看護学研究, Vol.9, 11-18

<学会発表>

- 1) 緒方昭子, 村上生美: タッチケアによるリラックス効果とその評価-演習におけるタッチケアの実施と評価測定を通して-, 第39回日本看護科学学会, 示説, 石川
- 2) Shoko Ogata, Yukiko Kukimoto . Masako Sotomura : The effect of soft massage therapy on comfort level after laparoscopic surgery of gastric intestinal (GI) cancer: Pre and post quasi-experimental design, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan
- 3) 中島真由美: 外来通院する働く世代のがん患者の日常生活上の困難に関する文献レビュー, 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会, 示説, 滋賀

<助成金による研究活動>

- 1) 緒方昭子: 科研費基盤研究(C) 臨床看護学(2016年~2019年)

4. 地域貢献

- 1) 緒方昭子: 日本統合医療学会関西世話人
- 2) 中島真由美: 近江八幡市立総合医療センター
第38回看護研究発表会講評

1-3. 老年看護学領域

1. 構成メンバー

坂田直美教授，安田千寿准教授，森本喜代美講師，森野美由紀助教，大阪紘子特任助手（6月～）

2. 教育活動

2年次前期：老年看護論（2単位）

今年度は、学生の主体的な学びを引き出すためグループワークや課題学習を多く取り入れて授業を行った。また、課題レポートはできるだけ早く学生に返却するとともに課題レポートで学習したことをテストで確認し、学習の強化を図った。さらに、9月の老年看護学実習に活用できるよう授業内容や展開方法を工夫した。

2年次前期：老年看護学実習Ⅰ（1単位）

老年看護論の講義を経て獲得した知識を活用しながら、老人福祉施設・老人保健施設で過ごす高齢者の実際を確かめに実習を行った。実習施設へ、看護職が指導する時間を設けるよう依頼し、技術実習ではなく高齢者そのものや高齢者の生活を感じ取ることを重点化するよう調整した。

2年次後期：老年看護技術論Ⅰ（2単位）

工夫した点は、前期の老年看護論で試みた課題学習を多く取り入れたこととテスト方法を定期テストから単元テストに変更するとともに、テスト後に解説を行い、知識の定着を図った。この方法に対する学生の評価は、ほぼ全員（1名のみ定期テストが良いとの回答）から好評を得て、次年度も継続してほしいとの意見が寄せられた。課題としては、テスト時間や解説時間を確保するため授業時間が少なくなり、一方向の授業になってしまった点である。次年度は、授業内容を一層精選し、アクティブラーニング等を取り入れるなどの工夫が必要であると考えている。

3年次前期：老年看護技術論Ⅱ（2単位）

高齢者の生活上にみられる困難や当事者から見た生活に対するニーズ、そしてその支援の在り方について考えを深められるよう授業を進めた。前年度からの老年領域全般の講義内容変更と教員入れ替えに伴い、教員間での連携が不足していたため、学生の混乱を招く部分があったことが反省である。

3～4年次：老年看護学実習Ⅱ（3単位）

この実習では、これまでの看護過程の思考に加え、高齢者の持てる力と限界について現場で感じる機会を得られるよう実習指導を行った。またカンファレンスを60分へ増大し、経験したことを既存の概念に結び付けて思考できるようファシリテートを試みた。実習の集大成としてその成果を個人レポートで表現すること、高齢者看護のテーマに対しグループ討議を経て導いた結論を発表することを新たに課した。グループ討議の深め方の工夫・考察や結論の示し方（資料作成）については次年度の課題である。

4年次：地域統合実習（2単位）

実習は老人保健施設と特別養護老人ホームで行った。学生の経験から実習テーマを焦点化し、施設責任者との交渉を経て、自ら考えた実習方法に従い実践することを経験した。能動的に動く必要性と達成感、高齢者看護への考えの深まりが実習の学びから伺えた。

4年次：卒業研究（4単位）

老年領域のゼミ生4名は、2名ずつの担当制（安田・森本）にして個別に対応できる体制を取り、研究計画書の指導を行った。8月の研究計画書の提出後、国家試験対策として学習計画と進捗状況の確認・国試に向けた確認テストを定期的実施した。対策の結果が満足に出ず、次年度は学生の性格や弱点を把握しながらより個別に対応し対策を練る必要がある。

3. 研究活動

<論文>

1) Kiyomi Morimoto : Study of the possible use of a home-visit nursing interventional lymphedema care program for secondary lymphedema in the elderly at home 2019, Health, 2019,11

<学会発表>

1) 森本喜代美, 赤澤千春, 寺口佐代子, 2019. 「訪問看護師による在宅高齢者の続発性リンパ浮腫へのリンパ浮腫ケアの困難と課題」第45回日本看護研究学会学術集会(大阪)

2) 小林加代子, 山本裕子, 渡邊真由美, 島中小百合, 坂田直美: 「地域連携会議における終末期ケアに関する検討の成果と課題」, 第23回日本看護管理学会学術集会(新潟), 2019.

<助成金による研究活動>

1) 森本喜代美: 令和元年度財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団「在宅高齢者の続発性リンパ浮腫への訪問看護介入リンパ浮腫ケアプログラムの活用可能性の検討」研究代表者 令和元年5月～令和2年3月

4. 地域貢献

- 1) 坂田直美: 長浜バイオ大学 JABEE 教育システム外部評価委員,
湖東地域看護ネットワーク推進会議委員,
彦根市地域支援会議委員,
社会福祉法人松風会 苦情対応第三者委員,
岐阜県厚生連 久美愛厚生病院地域連携会議および主任研修会アドバイザー
- 2) 安田千寿: 平成31年度長浜市介護認定審査会委員,
滋賀県レイカディア大学選任講座講師
- 3) 森本喜代美: 第45回日本看護研究学会学術集会実行委員

1-4. 母性看護学領域

1. 構成メンバー

木村知子教授，漆野裕子助教，戸田美幸助教，中村美由紀助手

2. 教育活動

2年：母性看護論（30時間2単位）では、母子を取り巻く社会や親子・家族関係の変化、母子の権利などの理解を深める授業内容である。本年度は、周産期に関わる倫理（漆野）、国際母子保健（戸田）を追加した。本学別科助産専攻の学生（ウイメンズヘルスの授業の1コマとして）による、妊娠適齢期、性感染症、DVなどについての特別授業を組み込んでいる。

母性看護技術論Ⅰ（30時間2単位）では、周産期における正常経過と看護について講義を行っている。母性看護学実習につながる授業内容とし、妊娠経過に伴う保健指導内容、分娩経過と看護、産褥経過における心身の変化と看護、正常新生児の生理的变化と看護の視点について一覧表の作成を課題とした。さらに対象理解を目的として、卒業生に協力を得て、産後4～10ヶ月の母子にゲスト講師として、自身のことを話してもらう授業を1コマ取り入れている。

3年：母性看護技術論Ⅱ（60時間2単位）では、講義及び技術演習を含む内容とした。講義では、周産期における異常と、正常産褥・新生児の看護過程の展開をウェルネス志向型で行った。初産婦、経産婦それぞれの妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例を作成し、妊娠期および産褥期・新生児期の過程展開を課題とした。また、過程展開から看護につながるよう産褥期・新生児期の標準看護計画を作成させた。技術演習では、3グループに分け、妊婦健康診査に必要な計測、NST モニターの装着と判読、分娩期の産痛緩和と呼吸法、分娩室でのケア、産褥期の子宮底高測定、乳房管理、新生児のV.S測定と全身の観察を行った。

母性看護学実習（90時間2単位）は、1グループ4～6名、6施設（新規施設2）で実施した。学生2名1組で1組の母子を受け持ち、ウェルネス志向型で看護過程を展開した。個別指導に心がけ、終了後数名の学生が記録の補習を必要としたが、全員が目標を達成できた。

4年：卒業研究では、9名のゼミ生それぞれのテーマに対しての研究指導を行った。また、ゼミ生4名に、進学受験指導を行い、計3名が助産師養成課程（本学別科助産専攻）に進学した。ゼミ生のうち、2名国家試験不合格となった。

別科助産専攻：木村が、ウイメンズヘルス2単位30時間、助産診断・技術学Ⅲのうち2コマ（ベビーマッサージ）、漆野、戸田、中村が助産学Ⅰ及びⅢを10時間分担当した。助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）、Ⅱ（継続事例実習）については、漆野、戸田（木村）、中村がのべ45.5（うちオンコール4）日担当した。

3. 研究活動

<論文>

1) 和田清恵、野浪 裕子、川瀬 恵美里、雁金 那実子、嶋田 安希、木村 知子：産後1ヵ月健診時

年次報告書（2019年）領域

のエンジンバラ産後うつ病自己評価票得点に影響する要因、滋賀母性衛生学会誌, 19(1), 15-21, 2019

2) 漆野裕子：臨地実習指導者が認識した倫理的課題：聖泉看護学研究, 9, 1-9, 2020

<学会発表>

- 1) 香川留美、木村知子：助産師の分娩介助件数と助産実践能力の達成度—分娩介助件数 100 件以内の助産師に注目して—、第 2 回助産診断実践学会学術、日本助産診断実践学会誌, 40, 2 (1), 2019
- 2) 小森久美子、木村知子、南谷志野：看護部長が就任後直面する課題、第 50 回日本看護学会（看護管理）、抄録集、看護管理 251、2019
- 3) 香川留美、木村知子：助産師の分娩介助件数と助産実践能力の達成度に関する研究、第 60 回日本母性衛生学会学術集会、母性衛生、60 (3)、258、2019
- 4) 木村知子、野村哲哉、高橋健太郎、A 県における 5 年間の助産師出向支援事業、第 60 回日本母性衛生学会学術集会、母性衛生、60 (3)、258、2019
- 5) 戸田美幸、磯邊厚子、植村小夜子、松永早苗、坂本千科絵：スリランカ農園地域の 5 歳未満児の栄養不良の現状と課題、第 3 回日本国際保健医療学会、3、2020
- 6) 磯邊厚子、植村小夜子、戸田美幸、松永早苗：スリランカ農園地域の働く母と子どもの自由と潜在能力、農園託児所の 5 歳未満児の低出生体重児率から、日本看護研究学会第 33 回近畿・北陸地方学術集会、プログラム・抄録集 40, 2020
- 7) 松永早苗、磯邊厚子、戸田美幸、Nihal Weerasorriya、Samath Dharmaratne、スリランカ農園地域の女性と子どもの感染対策、日本国際看護学会第 3 回学術集会、39、2020
- 8) 山田智恵里、磯邊厚子、桑野紀子、芝山江美子、戸田美幸、橋本真由美、投稿を推進するために学会と研究委員会ができること—日本国際看護学会で倫理審査を受けるために—、日本国際看護学会第 3 回学術集会、13、2020
- 9) 中村美由紀、流郷千幸：第 2 子の出産意欲に関する研究—乳幼児をもつ母親の第 1 子の妊娠・出産・育児の満足度と第 2 子の妊娠・出産・育児への自己効力感との関連—、第 45 回日本看護研究学会学術集会、プログラム・抄録集. 56, 2019
- 10) 中村美由紀、流郷千幸：第 2 子の出産意欲と第 1 子の妊娠・出産・育児の満足度および第 2 子の妊娠・出産・育児への自己効力感の 1 年間の変化、日本看護研究学会第 33 回近畿・北陸地方学術集会 プログラム・抄録集. 38, 2020

<報告書>

- 1) 磯邊厚子、戸田美幸、他 10 名：「スリランカの農園地域の女性の well-being を目指す潜在能力アプローチの実践・福祉の機能リストの構築」平和中島財団研究助成報告書、16-20、2019

<科学研究費等助成>

- 1) 木村知子：民間中小病院における看護職の多様な雇用形態循環モデルの導入と検証（若手研究 2019-2021）
- 2) 磯邊厚子、戸田美幸、松永早苗、植村小夜子：スリランカ農園地域の働く母と子どもの自由—潜在能力アプローチの実践（基盤 B、2019-2021）

4. 地域貢献活動

- 1) 聖泉版・近江楽座「地域の赤ちゃんと子育てママとほんわかするプロジェクト」母性看護学教員 4 名 + 学生 2 名
- 2) 聖泉大学地域連携交流センター 公開講座 楽しい子育て応援講座
・ベビーマッサージ（2 回） ・ベビーエクササイズ（1 回） 母性看護学教員 4 名 + 学生 11 名
- 3) 木村知子： 滋賀県母性衛生学会 理事 同学術雑誌査読委員
滋賀県助産師出向支援協議会（委員長）
滋賀県看護協会 認定看護管理者教育運営委員会 委員、セカンドレベル 講師
滋賀県実習指導者講習会（母性看護学）講師
彦根市立病院 地域医療連携委員会 委員 同 倫理委員会外部審査委員
東近江総合医療センター 地域医療支援病院 運営委員
滋賀県立八幡高校 評議員
第 2 回日本助産診断学会学術集会 企画・実行委員
- 4) 漆野裕子： 滋賀県母性衛生学会 幹事、第 29 回滋賀県母性衛生学会学術集会 実行委員
- 5) 戸田美幸： 第 29 回滋賀県母性衛生学会学術集会 協力委員、
日本国際看護学会評議員 同近畿北陸東海ブロック研究委員
- 6) 中村美由紀： 滋賀県看護協会 助産師職能委員、第 29 回滋賀県母性衛生学会学術集会 協力委員

5. その他 なし

1-5. 小児看護学領域

1. 構成メンバー

流郷千幸教授，平田美紀准教授，鈴木美佐講師，村井博子助教

2. 教育活動

2年：前期に小児看護論（30時間）、後期に小児看護技術論Ⅰ（30時間）の講義、演習を行った。小児看護技術論Ⅰでは、健康な子どもの発達段階の特徴を踏まえた遊びの意義を理解するために、地域の保育園児を招いて「秋祭り」を実施した。

3年：前期に小児看護技術論Ⅱ（60時間）の講義、演習を行った。うち、特別支援学校の実習（2日間）を9月に行った。

3-4年：小児看護学実習は保育園実習（2日間）と病院実習（8日間）とし、保育園実習はつくし保育園、八木荘保育園で行い、病院実習は長浜赤十字病院 2G、彦根市立病院 4G、近江八幡市立総合医療センター3G、滋賀県立小児保健医療センター7Gで行った。

4年：ゼミ生9名に対し、地域統合実習、卒業研究の指導を行った。地域統合実習は研究テーマに合わせ、野洲養護学校、滋賀県立小児保健医療センター、八木荘保育園で実習を行った。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 村井博子，流郷千幸，幼児期後期の子どもをもつ母親の育児困難感と育児に対する自己効力感，ソーシャルサポートの関連，聖泉看護学研究，vol.9，27-34，2020.
- 2) Suzuki, M. & Tomari, Y. (2020) Coping Process in Children with Food Allergies Developing during Early Childhood. Health, 12, 38-62.
- 3) 鈴木美佐 (2020) ,食物アレルギーのある子どもの対処過程に基づいた心理教育支援ガイドの検討. アレルギーの臨床,40 (4) 79-83.

<学会発表>

- 1) 村井博子，流郷千幸，A市内における幼児期後期の子どもをもつ母親の育児困難感と自己効力感との関連，日本家族学会第26回学術集会（京都）講演集，p94.
- 2) 中村美由紀，流郷千幸，第2子の出産意欲に関する研究—乳幼児をもつ母親の第1子の妊娠・出産・育児の満足度と第2子の妊娠・出産・育児への自己効力感との関連—，第45回 日本看護研究学会学術集会抄録集，p56.
- 3) 大塩佳名子，流郷千幸：夫婦関係満足度の認識の違いによる児の泣きへの感情への関連について，日本子ども虐待防止学会第25回学術集会ひょうご大会，p286.
- 4) 中村美由紀，流郷千幸，第2子の出産意欲と第1子の妊娠・出産・育児への自己効力感の1年間の変化，日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会，p38.

<国際学会発表>

- 1) Hiroko Murai, Characteristics of feelings of difficulty in child-rearing in mothers raising children with SGA short stature, The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science, 28-29 February, program book, p99.
- 2) Kanako Oshio, Chiyuki Ryugo: The impact of marital satisfaction on a father's emotional response toward his child's cries, The 6th WANS program book, p64.

<助成金による研究活動>

- 1) 流郷千幸：多職種協働プレパレーションモデルの開発（科研課題番号：16K12185）
- 2) 鈴木美佐：食物アレルギーをもつ子どもの発達段階別 教育用ツールの作成（科研課題番号：15K11734）
- 3) 平田美紀：PCPプログラムの開発：子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム（科研課題番号：19K11102）

4. 地域貢献

1) 領域全員

- ・滋賀県立大学小児看護学講座の教員と共に「子どものプレパレーション検討会」を開催（参加者 21 名）。
- ・「多職種協働プレパレーションの実際」シンポジウムの開催（参加者 48 名）。

2) 流郷千幸

- ・日本家族看護学会選任査読委員
- ・日本看護研究学会評議委員
- ・日本看護研究学会第 33 回近畿・北陸地方会学術集会実行委員長
- ・県内大学等におけるリカレント教育振興のための政策研究事業委員
- ・彦根長浜地域プラットホーム事業協議員

3) 平田美紀

- ・日本看護研究学会第 45 回学術集会 実行委員
- ・日本看護研究学会第 33 回近畿・北陸地方会学術集会実行委員

4) 鈴木美佐

- ・日本看護研究学会第 45 回学術集会 実行委員
- ・日本看護研究学会第 45 回学術集会 査読

5) 村井博子

- ・彦根市立城北小学校 学校保健委員会主催の講師（7 月 29 日）
- ・日本看護研究学会第 45 回学術集会 実行委員

1-6. 精神看護学領域

1. 構成メンバー

間文彦教授，西垣里志准教授，栗原はるか講師

2. 教育活動

1年：人間関係論は（間）、看護師として重要である援助的コミュニケーションのあり方を理解するため、グループワークを中心に対人関係における自分自身のコミュニケーションの傾向を再考察できるような講義を行った。

2年：精神看護論は（間）、精神看護学において基礎となる疾患や社会復帰に向けての活動や、精神障害者の処遇や歴史的背景を踏まえた講義を行った。

精神看護技術論Ⅰはオムニバスで開講した（栗原、西垣、間）。精神障害をもつ人のストレスの捉え方など、事例を通して考えた。

3-4年：精神看護技術論Ⅱはオムニバスで開講した（栗原、西垣、間）。看護過程を展開する理論としてオレムのセルフケアを中心に講義をおこなった。また、治療が、病院から地域へと転換されている精神保健の流れから、ストレスモデルを使って患者を理解するための講義と演習を取り入れた。

精神看護学実習は、水口病院・豊郷病院とも2病棟（閉鎖病棟・回復期開放病棟）で実習を行なった。病棟の違い、特に閉鎖病棟と開放病棟のハード面とソフト面の違いの理解を深めるために、実習最後の午前に各病棟から病棟の特性・入院患者の入院形態・病態の説明等を発表し共通認識を深める指導を取り入れた。さらに本年より、地域における精神障害者の社会資源として、精神障がい者通所施設就労継続支援 B 型作業所モコハウス・ワークステーション虹に1日実習することで、病院から地域での支援の在り方の理解を深めるようにした。

カンファレンスは、病棟指導者に参加してもらい毎日30分程度行った。実習初日は、患者とどのように関わればよいかとまどう学生が多かった。しかし、プロセスレコードの活用により自身の傾向を理解することができた。また、患者さんの健康な側面やその人を中心にセルフケア援助を理解することができた。

4年：卒業研究、統合実習においては、それぞれの希望を中心に実習病院や施設を選択し、精神障害者の急性期から退院支援に向けた看護職の役割を主体的に学習することができた。

また、精神障がいをもつピアサポーターを、ゼミに招き、「リカバリーストーリー」を聞かせていただく機会を設けた。それにより、学生の精神看護への理解をより深めることができた。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 原田小夜，西垣里志，山根寛（2019）：高齢精神障害者支援における介護支援専門員の把握情報と精神保健医療福祉機関との連携の現状と課題～介護支援専門員が支援している事例分析から～. 日本精神障害とリハビリテーション
- 2) 原田小夜，西垣里志，山根寛（2019）：介護支援専門員の高齢精神障がい者の支援経験と精神科専門職との連携の実態. 精神障害とリハビリテーション 23巻（1）

年次報告書（2019年）領域

- 3) 栗原はるか (2019) : 精神障害をもつピアサポーターについての研究動向と課題 (文献検討), 聖泉看護学研究 Vol.8.

<学会発表>

- 1) 西垣里志, 千田美紀子, 栗原はるか (2019) : 発達障害のある学生のキャリア支援に関する文献検討
日本ヒューマンケア心理学会
- 2) 千田紀美子, 西垣里志, 栗原はるか (2019) : 発達障害の特性のある学生の実習指導に関する文献検討,
日本ヒューマンケア心理学会
- 3) 原田小夜, 西垣里志, 山根寛 (2019) : 訪問看護師の 高齢精神障害者支援における介護支援専門員との連携に対する思い, 日本精神障がい者リハビリテーション学会

4. 地域貢献活動

- 1) 間 文彦 : 日本看護協会滋賀県支部主催 「看護研究をやってみよう」 講師
近江地域学会 理事
彦根市公共上下水道事業審議会委員
彦根市地域支援会議委員 理事
聖泉版・近江楽座 間文彦, 山口隆介 : Genius Loci 再活用プロジェクト
- 2) 西垣里志 : 社会福祉法人「きぼう」評議員
滋賀県精神保健審査会委員
社会福祉法人「きぼう」理事

1-7. 地域看護学領域

1. 構成メンバー

安孫子尚子准教授，後藤則子特任助教，大塩佳名子助手

2. 教育活動

2年：前期には「地域看護論（30時間）」、後期には「地域看護技術論Ⅰ（30時間）」「地域看護技術論Ⅲ（60時間）」の講義、演習を行った。技術論Ⅰは成人事例を用いた家庭訪問援助計画作成、ライフステージ別の健康教育の企画、技術論Ⅲは、滋賀県内の模擬市町のデータによる地域診断の演習を行った。健康教育と地域診断は成果発表を行った。学生には manaba による小テストを実施し理解を促した。

3年：前期には「地域看護技術論Ⅱ（30時間）」で対象別保健活動について教授した。

4年：地域看護学実習（225時間）では、学生28名が県内保健所、市町保健センター、地域包括支援センターで実習を行った。家庭訪問では学生のみで行う継続訪問の実施を目指した。家庭訪問報告会で学生は担当した事例を発表し、個別事例から地域課題へのつながりを意識させた。地域診断は、実習前、実習終了時に学内と実習地での発表会を行った。また、実習での健康教育や地域診断などは、グループメンバーで取り組むために、自分の役割を果たしながら、建設的に話し合い、学びの促進に貢献するグループダイナミクスを学ぶ機会となった。

地域統合実習（90時間）は、7名の学生が甲良町地域包括支援センターで母子保健や成人保健、高齢者保健に関する事業に積極的に参加し、住民と関わりながら、実施した。卒業研究では、7名が研究計画書作成に取り組んだ。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 安孫子尚子 (2020) : 高齢者の人生の最終段階における医療とケアの意思決定に関する文献レビュー, 聖泉看護学研究, 9, 43-50.
- 2) 大塩佳名子 (2020) : 乳幼児揺さぶられ症候群に関する研究の動向 — テキストマイニングを用いた抄録内容の分析 —, 聖泉看護学研究, 9,

<学会発表>

- 1) Shoko Abiko, Kazuko Mitoku, Eriko Arakane, The relationship between medical knowledge and decision-making during the final stages of life of healthy older adults, International Council of Nurses Congress 2019 program book, p81.
- 2) Shoko Abiko, Kazuko Mitoku, Eriko Arakane, Decision making in the final stage of life for healthy older adults, The 6th WANS program book, p92.
- 3) 安孫子尚子 : 人生の最終段階における医療とケアに関する文献レビュー～高齢者の意思決定について～, 日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会, 滋賀
- 4) 大塩佳名子, 流郷千幸 : 夫婦関係満足度の認識の違いによる児の泣きへの感情への関連について, 日本子ども虐待防止学会第25回学術集会ひょうご大会 プログラム・抄録集, p286
- 5) Kanako Oshio, Chiyuki Ryugo, The impact of marital satisfaction on a father's emotional response toward his child's cries, The 6th WANS program book, p64.

<助成金による研究活動>

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
安孫子尚子 : すこやかな最終段階を迎えるための意思決定の促進とソーシャルキャピタルの醸成, (課題番号 17K12603) 2017-2019
- 2) 文部科学省研究費助成事業 若手研究
大塩佳名子 : 父親・母親による乳幼児揺さぶられ症候群のリスクスクリーニング尺度の開発, (課題番

号 19K196720) 2019－2022

4. 地域貢献活動

- 1) 領域全員：彦根市地域ケア会議推進研修
COC+アイデアコンテスト「地域ぐるっとウォーキングプロジェクト」生7名
- 2) 安孫子尚子：彦根市 高齢者保健福祉協議会会長，
健康づくり推進協議会会長，
総合計画審議会委員，
地域密着型サービス運営委員，
福祉部子ども未来部指定管理者候補者選定委員，
甲良町 認知症ケアパス作成検討委員会スーパーバイザー，
第45回日本看護研究学会学術集会(大阪) 実行委員，
日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会企画委員，
ピンクリボンひこね実行委員会監査，会議および普及啓発活動への参加，
聖泉版・近江楽座多胡陽介，安孫子尚子，「認知症の予防啓発プロジェクト」
- 3) 後藤則子：滋賀県「令和元年度湖東圏域保健師初任者研修会」講師，
大津市「令和元年大津市保健師学習会」
- 4) 大塩佳名子：滋賀県市町保健師協議会東近江支部研修会講師，
ピンクリボンひこね実行委員

1-8. 在宅看護学領域

1. 構成メンバー

磯邊厚子教授，桶河華代講師，川嶋元子講師

2. 教育活動

2年：毎授業終了後、5分間テストをmanabaで行い、授業の振り返りと学習確認を行った。manabaを利用し、自己の課題への気づきと同時に、国家試験問題も提示し、知識の蓄積、拡大を促した。レポート課題は個々にフィードバックし、誤字脱字は指導し、文章の書き方や「論理的に書く」習慣を教授した。授業教材は現場実践が理解しやすく、さらに感性が育つよう、相応しい医療モデルビデオ等を取り入れた。

3-4年：在宅看護過程の内容の充実と医療的技術（吸引、胃ろう）は現場の実態に合わせた方法で教授した。訪問看護ステーションの管理者にマナー演習に参加頂き、在宅看護の特性と役割の認識向上を高めた。退院支援や認知症療養者の地域の取り組みを外部講師の協力を得て、地域包括ケアの必要を教授した。ロールプレイやグループワーク等学生参画型授業を取り入れ、学生の主体性を促した。

4年：卒業研究は、学生の関心のあるテーマを尊重し内容を深め、計画書作成まで全員が到達した。地域統合実習は看護小規模多機能施設を新規開拓し、地域で療養者を支える仕組みと高齢者、精神障害者、認知症患者の多い看護活動の場を認識できるようにした。国試対策は学生の個別性に応じ指導を行い、在宅ゼミでは国試を落とした学生はいない。

3. 研究活動

<著書>

- 1) 桶河華代：「ナイチンゲールの「病院覚え書」から看護の視点で病院を見直そう！
－「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の学びと歩み－（城ヶ端初子 編著）；第1部4章，第2部1章1・2，2章2・3，3章2，4章2，5章2，6章2，7章2，8章1・2，9章1・2，3月2020

<論文>

- 1) 桶河華代，高島留美，城ヶ端初子：『病院覚え書』を読み解く－「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の歩み－，看護展望10月号，80-85頁，2019
- 2) 桶河華代，中島真由美，間文彦：看護実践能力育成のための看護技術項目の再検討，聖泉看護学研究Vol.9，3月2020
- 3) 桶河華代，高島留美，松井克奈子，後藤直樹，岸本沙希，國松秀美，出石万希子，吉永典子，浅居美樹，城ヶ端初子：『病院覚え書』を読む－「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の歩み－，聖泉看護学研究Vol.9，3月2020
- 4) 磯邊厚子：高齢者と看護学生の地域内交流，彦根・長浜地域の産官学連携ハンドブックVol.1.18-19頁，2月2020
- 5) 磯邊厚子，戸田美幸，松永早苗，Nihal Weerasoorriya, Samath Dharmaratne, Offiyar Thevar 他8名：「スリランカの農園地域の女性のwell-beingを目指す潜在能力アプローチの実践・福祉の機能リストの構築」平和中島財団研究助成報告書16-20頁，10月2019

<学会発表>

- 1) 戸田美幸，磯邊厚子，植村小夜子，松永早苗，坂本千科絵：スリランカ農園地域の5歳未満児の栄養不良の現状と課題，第3回日本国際保健医療学会，37頁，3月2020
- 2) 磯邊厚子，植村小夜子，戸田美幸，松永早苗：スリランカ農園地域の働く母と子どもの自由と潜在能力，農園託児所の5歳未満児の低出生体重児率から，第33回看護研究学会 近畿北陸地方会 滋賀，40頁，3月2020
- 3) 磯邊厚子，戸田美幸：第3回日本国際看護学会近畿北陸東海地区分科会「国際看護研究－海外学術調査のプロセス」<http://日本国際看護学会>，兵庫大学，2月2020
- 4) 川嶋元子，桶河華代，磯邊厚子，今井恵，西垣里志，森本喜代美：高齢者と学生の地域内交流プロジ

年次報告書（2019年）領域

エクトー高齢者へのインタビューを通じて、第33回看護研究学会 近畿北陸地方会 滋賀, 42頁, 3月2020

- 5) 桶河華代, 國松秀美, 高島留美, 奥田のり美, 千田昌子, 吉永典子: ナイチンゲール看護講演会に参加した看護職の学びと課題—「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」歩みの報告, 第33回近畿・北陸地方会学術集会 滋賀, 47頁, 3月2020
- 6) 高島留美, 桶河華代, 松井克奈子, 後藤直樹, 岸本沙希: 「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」歩みの報告, 第33回近畿・北陸地方会学術集会 滋賀, 48頁, 3月2020
- 7) 大内正千恵, 桶河華代, 川嶋元子, 磯邊厚子, 岡本きみ江, 中島真由美, 山根加奈子, 村田真由子: がん末期の告知場面でのロールプレイングを試みて, 第33回看護研究学会 近畿北陸地方会 滋賀, 45頁, 3月2020

<助成金による研究活動>

1) 文部科学省研究助成

磯邊厚子, 戸田美幸, 松永早苗, 植村小夜子: スリランカ農園地域の働く母と子どもの自由—潜在能力アプローチの実践, 基盤B (課題番号 JP19H04372), 2019-2021

川嶋元子, 小野ミツ, 今井恵: 中規模病院の外来看護師における在宅療養支援の看護実践能力自己評価尺度の開発 (課題番号 19K11127), 2019-2021

4. 地域貢献活動

- 1) 城ヶ花初子, 桶河華代, 高島留美: ナイチンゲール看護研究会・滋賀主催, 5月19日, 講演会「ナイチンゲールからの贈り物を受け止め, 受け継ぐ」2名の講師を招聘.
- 2) 聖泉版・近江楽座
磯邊厚子, 桶河華代, 川嶋元子, 西垣里志, 森本喜代美, 今井恵: 「高齢者と看護学生の地域内交流」地域活性化プロジェクト 2019 4月—2020 3月

2. 委員会活動報告

2-1. 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安孫子尚子
- 2) 委員：西山ゆかり，安田千寿，中島真由美，鈴木美佐，川嶋元子，栗原はるか，戸田美幸

2. 所掌事項（看護学部教務委員会規程）

1) 試験に関する業務

- (1) 定期試験日程調整 (2) オリエンテーション (3) 定期および再試験の依頼
- (4) 試験結果一覧作成 (5) 成績通知 (6) 進級判定資料作成 (7) 試験監督の調整

2) 学年暦の作成

3) 各ワーキンググループの役割（教務委員会内取り決め）

A：履修要項、履修登録、フレッシュゼミ、キャリア教育ⅠおよびⅡに関すること

B：時間割、試験日程、外部講師対応に関すること

C：卒業研究、キャリア教育ⅢおよびⅣに関すること

*各ワーキングが担当する内容報告により委員会で検討を行った。

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題・内容
1	2019年4月4日(木)	1. 新年度各学年ガイダンスの振り返り 2. 委員会体制について 各ワーキング役割確認 3. フレッシュゼミ、キャリア教育Ⅱ 4. 外部講師の対応
2	2019年5月13日(月)	1. 既修得単位認定について 2. 前期試験日程案検討 3. 7期生卒業研究に関する検討(到達目標・ゼミ人数)
3	2019年6月10日(月)	1. キャリア教育Ⅰ・Ⅲ(後期)の準備状況 2. 前期試験時間割と終了時のオリエンテーション
4	2019年7月8日(月)	1. フレッシュゼミ、キャリア教育Ⅱの進捗状況 2. 前期試験時間割と試験監督担当、後期時間割調整 3. 卒業研究への取り組みについて
5	2019年8月5日(月)	1. 授業評価(フレッシュゼミ・キャリア教育Ⅱ) 2. キャリア教育Ⅲ(インターンシップ) 3. 前期試験実施に関する課題、後期時間割最終版
6	2019年9月9日(月)	1. 後期試験時間割と外部講師の対応について 2. 6期生卒業研究計画書提出状況と7期生の入門講座Ⅰ
7	2019年10月10日(木)	1. 2020年度履修要項作成 2. 後期試験・追試験・再試験、判定会議日程調整 3. 7期生卒業研究手引きに関すること 4. キャリア教育Ⅲ・Ⅳの準備状況
8	2019年11月13日(水)	1. 全学教務委員会の連携事項 2. キャリア教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの進捗状況 3. 後期試験に関すること
9	2019年12月11日(水)	1. 2020年度のフレッシュゼミ、キャリア教育 2. 後期試験の試験監督について
10	2020年1月8日(水)	1. 2020年度の履修要項、時間割について 2. 後期試験終了後のオリエンテーションについて 3. キャリア教育Ⅲの準備状況
	2020年2月3日(月)	シラバスチェック委員会

11	2020年2月3日（月）	1. 2020年度の履修要項 2. 時間割（人間学部との調整） 3. キャリア教育Ⅲのゲストスピーカーに関する事
12	2020年3月13日（金）	1. 2019年度の振り返り（各ワーキング） 2. 2020年度のワーキング担当（案）

4. 委員会総括

委員会は教務課と連携し活動した。学生委員会との情報共有と連携を行った。

7期生から開始した、キャリア教育は、フレッシュゼミ、キャリア教育Ⅰ～Ⅲを実施し、学びの積み上げとしてキャリア教育Ⅳの検討を行うことができた。

以下、各ワーキングについての主な振り返りを行った。

1) ワーキング A

- ・履修要項の見直しは、全学教務委員会での両学部の履修規定確認、2020年度カリキュラムなどの調整が必要となり時間を要した。
- ・フレッシュゼミはワーキングとタクナル経験者で行ったが、問題はなかった。
- ・キャリア教育Ⅰは講師決定に時間を要したが、学びは深められた。キャリア教育Ⅱでのインターンシップはリテラシー強化のために授業内容の変更を検討した。

2) ワーキング B

- ・外部講師の紹介は、教務課で対応（学部長・委員長・ワーキング）し、特に問題なかった。
- ・定期試験ガイダンスは、昨年度より1年生前期のみで行っているが、1年生・2年生の受験に対する課題が残った。

3) ワーキング C

- ・7期生の卒業研究は、昨年同様到達目標が研究計画作成であり、学部としての卒業研究抄録は作成しない。研究計画書の完成については、各領域の責任において確認した。

2-2. 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：西垣里志
- 2) 委員：緒方昭子，桶河華代，山根加奈子，平田美紀，村井博子

2. 所掌事項

- 1) 学生委員会開催 2) 学年担任と学生指導・支援及びチューターとの連携
- 3) 長期休暇前の生活指導 4) 学生課との連携協力 (①学生表彰関係 ②就職支援関係 ③学友会関係 ④新入生オリエンテーション関係 ⑤奨学金関係 ⑥クラブ関係 ⑦学生の生活・学習環境関係 ⑧学生便覧関係) 5) 万聖祭への参加協力関係
- 6) 卒業パーティー協力 7) 全学学生委員会との連携協力 8) 教育後援会への出席

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題・内容等
1	2019年4月8日(月)	1. 進路就職関係の年間予定の確認 2. 進路登録カードWEB登録について 3. オリエンテーションふり返り 4. 学生委員会業務確認
2	2019年5月15日(水)	1. 奨学金・学友会・就職試験について 2. 万聖祭及び学長奨励表彰について 3. 各学年担任報告
3	2019年6月5日(水)	1. 学友会組織について 2. 就職ガイドブック見直しについて 3. 各学年担任報告
4	2019年7月10日(水)	1. 万聖祭進捗状況 2. マイナビの活用について 3. 夏季休暇前連絡事項確認
5	2019年9月11日(水)	1. 学友会活動・万聖祭進捗状況 2. 進路内定状況 3. 各学年担任報告
6	2019年10月4日(金)	1. 万聖祭進捗状況 2. 各学年担任報告
7	2019年11月5日(火)	1. 就職ガイドブック・はたさぼについて 2. 万聖祭進捗状況 3. 次年度予算について 4. 各学年担任報告
8	2019年12月9日(月)	1. 就職ガイドブック・はたさぼについて 2. 万聖祭ふり返り 3. 各学年担任報告 4. 次年度卒業パーティー・オリエンテーション
9	2020年1月6日(月)	1. 就職ガイドブック・はたさぼについて 2. 7期生卒業パーティーについて 3. 担任報告
10	2020年2月3日(月)	1. はたさぼについて 2. 就職ガイドブックについて 3. 次年度オリエンテーションについて 4. 学友会活動内容について 5. 学生奨励表彰について 6. 新入生行事について 7. 各学年担任報告について
11	2020年3月3日(火)	1. はたさぼについて 2. 新年度オリエンテーション 3. 卒業パーティー返金について 4. 学長奨励表彰 5. 各学年担任報告

4. 委員会総括

1) 進路就職関係について

例年、マイナビより担当者を招いて3年生対象のはたさぼにおいて、次年度の採用

状況や就職に向かう心構え、具体的な面接時のアドバイスなどを講義形式で行っていた。今年度からは、しがヤングジョブパークが講義を担する予定であったが、新型コロナウイルスの影響のため、はたさぼの中止に伴い講義も中止となった。

次年度は、はたさぼはキャリア教育Ⅲに組み込まれることになるため教務委員会との調整が必要である。また、本年度より manaba を使った就職試験等の登録を行うようになったが、採用試験で不合格になった場合の登録がきちんとできていないことがあり、正確な受験結果の情報が得られていないので、今後の課題となった。

2) 学友会について

本年度、前半は順調に学友会としての地域活動の参加がなされていたが、万聖祭に向かってかなり負担を感じたようで、万聖祭終了後に1年生の学友メンバーが全てやめてしまうという事態となった。原因は様々で、地域活動に参加を求められるのが土日であるため、アルバイトに支障をきたすことや、万聖祭準備でかなりの時間と負担を要したこと、さらに、上級生が下級生の指導がきちんとできていなかったため、出席しても指示が出ずに何をしたらよいかわからない状態が続いたことなどが挙げられる。今後、学友会活動の見直しをして、できるだけ負担の軽減を行うこと、および学入会のメンバーを確保していくことが課題である。

3) 新入生オリエンテーションについて

前年度より綿密に各学年が計画を立てて実施した。特に1年生は、例年の病院見学がなくなり本年度初めて滋賀県防災危機管理センターの見学と、親睦を図るためにボーリング及びあたか飯店での昼食を計画実施した。初めての試みであったが、大きな問題もなく親睦を図るには、ほどよい行程と内容であった。大勢の人数が食事をして、安心して過ごせる場所の確保は難しいものがあるが、今後も継続することに問題はないと考える。

4) 卒業パーティーは新型コロナウイルスの影響で中止となった。4年担任中心に、動画撮影、スライドショーの制作をおこないUSBに保存して学生各自に配布した。

以上下線部の問題点を確認し、次年度に改善を検討し取り組む課題として確認した。

2-3. 国家試験対策委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：井之口文月，漆野裕子，大塩佳名子，平野杏奈，村田真由子

2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策に関すること
- 2) 看護師国家試験に関すること
- 3) 保健師国家試験に関すること

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題、内容等
1	2019年4月3日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・国試対策委員会の役割について ・保護者会(4/13)について ・2019年度国試対策年間計画について
2	2019年4月13日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会(4/13)の振り返り ・強化対策について ・低学年対策
3	2019年5月13日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・強化対策の進捗状況 ・予算について
4	2019年6月10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・強化対策の進捗報告 ・東京アカデミー低学力者向け講座について ・保健師対策について ・東京アカデミー低学年模試について
5	2019年7月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・強化対策の振り返り ・東京アカデミー対策講座について ・保健師対策について ・低学年夏季休暇課題について
6	2019年8月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミー第1回看護師模試(8/20)について ・保健師対策について ・低学年夏季休暇課題について
7	2019年10月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミー必修模試(10/1)結果について ・願書提出確認(11/12)の体制について ・保健師対策について ・低学年(3年)国家試験対策について
8	2019年11月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミー第2回模試(11/5)結果について ・願書提出確認について ・保健師対策について
9	2019年12月11日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミー第3回模試(12/10)結果について ・冬季強化対策について ・保健師対策について ・次年度予算について
10	2020年1月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・学研模試(1/10)自己採点結果について ・冬季強化対策対象者進捗状況 ・保健師対策について ・受験票渡し(2/4)について
11	2020年2月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・国家自己採点(2/18)について ・合格発表(3/19)について ・次年度(2020)年間計画について ・低学年の春期休暇課題について
12	2020年3月16日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・合格発表(3/19)の対応について
13	2020年3月19日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・合格発表の確認と対応

4. 委員会総括

1) 国家試験サポートについて

4月に国家試験保護者説明会を開催し国試の概要と本学の対策および費用について説明し支援をお願いした。42名/68名の出席があった。東京アカデミーによる国試対策2年目であり東京アカデミーの低学力者向け講座、夏季・冬季講習の受講をするよう伝えた。9月からの東京アカデミー対策講座は松本講師、片根講師の2名であり講師が変わることで学生の戸惑があった。

保健師対策は地域看護領域が主体となり対策講座を行った。ダブル受験の学生へは地域領域から面接を行い1名が辞退した。

2) 模擬試験について

看護師国家試験は、東京アカデミー（必修、第1～3回）、学研（第3回）を行った。1月の学研は成績が下がるためモチベーションへの影響もみられた。

保健師国家試験対策については、ほけもし（3回）を行った。

3) 強化対策について

学内強化対策対象者は、3年前期までの成績、課題への取り組みを参考に選定した。実習の時期を考慮し、4～6月に分けて過去問を学習し小テストを行った。国試委員会にて学習方法の指導を行い、ゼミと情報共有した。全体に過去問が夏までに終わることができず後期になりようやく取り組む状況であった。また対策講座やゼミの欠席が多い学生に対して学長面談をして激励した。1月以降も学習環境を調整したが大学で学習する学生は少なかった。

4) 低学年対策について

低学年への国試対策として、3年生には5月に東京アカデミーの低学年模試を実施した。領域実習前にはそれぞれの領域から国試問題の課題を提示した。1～2年生には例年通り夏季休暇課題と春期休暇課題を配布した。

学内強化対策の問題点を確認し、次年度にゼミおよびグループで取り組む強化対策についての課題を確認した。

2-4. 実習調整委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：磯邊厚子
- 2) 委員：流郷千幸，西垣里志，森本喜代美，小林菜穂子，村井博子，漆野裕子，馬場好恵，大塩加奈子

2. 所掌事項

- 1) 委員会運営に関する業務
各ワーキングに関する業務
 - ・ワーキング A：実習指導者会議の企画運営，臨地実習要項の調整
 - ・ワーキング B：実習ローテーション表作成，学校協議会との調整
 - ・ワーキング C：インシデント報告，地域統合実習要項及び実習調整，予算
- 2) 実習指導者会議に関する業務
準備や当日の運営は全ワーキングで担った。

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題、内容等	備考
1	2019年4月9日(火)	各ワーキングの役割担当決定と今後の役割業務の検討、決定	9名
2	2019年5月15日(水)	臨地実習施設管理者・指導者会議について事前準備と役割、運営について検討、決定	9名
3	2019年6月14日(金)	臨地実習指導者会議の振り返りと今後の課題検討、地域統合実習に関する実績報告書	8名
4	2019年7月8日(月)	2019年度の実習ローテーション表の確認、2020年度の計画確認、統合実習報告書締切り	9名
5	2019年9月9日(月)	2019年度実習全体オリエンテーション、実習ローテーション表の案検討、統合実習報告書	9名
6	2019年10月7日(月)	2020年度の実習要項作成について、ローテーション表の調整、統合実習報告書の印刷	7名
7	2019年12月11日(月)	2020年度の実習要項作成について、ローテーション表の調整	8名
8	2020年1月7日(火)	2020年度の実習共通要項の見直し、予算執行の検討、インシデント報告の検討	5名
9	2020年2月14日(金)	実習先の病院施設の駐車券について各領域の要望調整、2021年のローテーション表調整、インシデント報告の内容検討	8名
10	2020年3月17日(火)	2019年度各ワーキング報告、実習オリエンテーション、ローテーション表作成に関わる今後の課題	7名

4. 委員会総括

各委員の協力によりそれぞれのワーキングの役割を果たし、スムーズに運営が進んだ。今後の課題；

- ・実習指導者連絡会の方法がこれまでどおりでよいか、検討が必要と考える。各施設個々に現状報告や課題を示してもらうのではなく、ワークショップや施設同士でのグループワークはどうか？の案も出されている—その場合は、ファシリテーターが教員に求められ、本学の実習の在り方をしっかりと示しておかねばならない（目的を明確にしておく必要

有)。

- ・ローテーション表について、各領域がとめどなく変更が多く、ワーキング担当の負担を考慮する必要がある。また、滋賀県学校協議会への実習計画表を、今後所定の3施設においても最終決定版を郵送するようになった。
- ・地域統合実習報告書を今後も冊子で作るかどうかー臨地実習の最終段階に位置付けられた実習とはいえ、各領域の共通事項や「統合」の意味が不明確のため、冊子作成の必要性和意義について検討要である。
- ・インシデント・アクシデント用紙の内容が、明らかに学生の非ではないものもあり、むしろ現場指導者・教員の責任が問われる場合もみられる。今後、提出された用紙をそのまま受領するのではなく、委員会で検討することにする。

以上、上記の問題点を確認し、次年度の実習調整委員会の役割について取り組む課題として確認した。

2-5. FD委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：坂田直美
- 2) 委員：緒方昭子, 森本喜代美, 井之口文月, 高島留美

2. 所掌事項

- 1) 看護学部 FD 研修会の開催（全学 FD 研修会に協賛）

3. 委員会活動

1) 活動方針

- ① 全学FD委員会活動への協賛
- ② 学生への授業評価の実施
- ③ 授業評価への教員の報告書の作成
- ④ 必要時、カリキュラム検討委員会との協働による研修会の実施

2) 活動報告

① 全学FD研修会への参加

8月8日に実施された全学FD研修会「現象学的人間理解」看護学部からの参加は34名で看護学部の参加率は92%であった。

② 学生への授業評価の実施

看護学部専任教員が担当している科目においてはすべて実施することができた。今年度実施した授業評価に関する分析は次年度実施し、課題抽出につなげる。

③ 授業評価への教員の報告書の作成

教員の報告書作成を依頼した。報告書の提出期限は次年度4月26日である。

④ 必要時、カリキュラム検討委員会との協働による研修会の実施

カリキュラム検討委員会からの要請がなく実施できなかった。

⑤ 大学院FD研修会への参加要請

大学院のFD研修会（「プレゼンテーションはプレゼント」講師は人間学部の炭谷将史教授）を3月16日に看護フォーラムに続いて開催する予定で教員への周知等を行ったが新型コロナウイルス感染症対策本部の方針により延期となった。時期は未定。

3) 委員会の議事内容

回	年 月 日 (曜日)	議題・内容等
1	2019年11月1日(金) 2020年2月	2019年度の看護学部FD研修について ・今年度はカリキュラムプロジェクトと協働してFD研修を行う予定であったが、現時点で要請がなかった。 決定事項 ・今年度の研修内容と講師の選定についてはカリキュラムプロジェクトの意向を聞く。 ・研修会候補日は令和2年3月23日(月)、26日(木)、27日(金)とする。 ・研修テーマと講師を検討している間に新型コロナウイルス感染症のため、今年度の看護学部FD研修会は中止となった。

4. 委員会総括

次年度は、看護学部独自のFD研修会のあり方について委員会で検討し、計画的に進める必要がある。また、各委員会及び領域からの研修会の要望等を取り入れ活動計画に組み入れていく。さらに、本学の学生の特性に応じた教育方法の開発のために、IR、教務委員会、国家試験対策委員会、学生委員会等と協働し、看護学部全体で取り組んでいく必要がある。

以上の通り委員会活動の一年間を振り返り、次年度に取り組む課題として確認した。

2-6. 研究促進委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：坂田直美
- 2) 委員：井之口文月，栗原はるか，平野杏奈，村田真由子

2. 所掌事項

- 1) 2019年度 「学長裁量経費」看護学部研究助成費の募集と選考準備
- 2) 2019年度 「学長裁量経費」看護学部研究助成費 研究成果報告会（看護フォーラム）の開催
- 3) 2019年度 「学長裁量経費」看護学部研究助成費 研究成果報告書の作成

3. 委員会活動

回	月 日（曜日）	議題・内容等
1	2019年4月16日(火)	1. 2019年度 委員会活動計画について 1) 予算の確認と執行計画について 2) 2019年度看護学部研究助成費に関する年間計画について フローチャートの確認と教授会資料作成の準備 3) 委員会活動役割分担について 4) 看護フォーラムの開催日程について（2020年3月19日）
2	2019年6月13日(木)	1. 2019年度 看護学部研究助成費の採択結果の報告 本年度採択されたのは2件。 2. 看護学部研究助成費の残額の使途についての意見聴取 教授会にて審議された結果、国際学会参加登録費助成に決まり希望者を募集し、4名が決定した。
3	2020年1月24日(金)	1. 2019年度の看護フォーラムについて 1) 委員会規定により看護フォーラムから聖泉看護フォーラムへ通称変更する。 2) 開催日時：2020.3.16（月）13時～15時 在宅看護学実習室 3) 発表者：研究発表者2名と国際学会参加者4名 4) 抄録と発表者要領について 5) 当日のタイムスケジュールと役割分担について
4	2020年2月13日(木)	1. 2019年度 聖泉看護フォーラムの実施について 1) チラシ・配布資料・掲示資料の確認 2) 役割分担について 3) 実施後のアンケート調査について 4) 発表者への研究成果報告書作成依頼について 2. 2020年度 学長裁量経費研究助成費の応募について 1) 応募要領および看護学部研究助成費応募研究計画書の見直しと変更
5	2020年3月2日(月)	1. 聖泉看護フォーラムの実施について 1) プログラムの確認（タイムスケジュール等） 2) 準備や後片付けの役割分担と作業手順についての最終確認 2. 2020年度の学長裁量経費研究助成費の応募について 1) 応募要領の見直しと修正案の作成 2) 2020年度の募集の周知について 3. 委員会の活動報告（年次報告書）作成について
	2020年3月	1. 新型コロナ感染症対策会議にて聖泉看護フォーラムの中止が決定。 研究成果報告書の提出日は予定通りとする。

4. 委員会総括

2019年度は、応募件数そのものが少ないことと、募集条件を満たしていない申請者が半数あったことなどから、2件の研究助成しかできなかった。次年度は応募条件の周知徹底

を図ることと、申請の準備に早く取り掛かるよう学科会議等を通して働きかけることが課題である。また、昨年度、研究助成を受けた研究が科研費獲得へと繋がっており、今年度助成費を受けた研究が科研費獲得につながるよう支援を行う。なお、新たな外部資金調達への支援も強化していく必要がある。

以上の通り委員会活動の一年間を振り返り、次年度に取り組む課題として確認した。

2-7. 学術誌編集委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安田千寿
- 2) 委員：木村知子，森野美由紀，今井恵，戸田美幸，田中百可（教務課）

2. 所掌事項

- 1) 学術誌の編集と出版
- 2) その他、学術誌等に関すること

3. 委員会活動

回	年月日（曜日）	議題・内容等	備考
1	2019年4月25日（木）	1. 年間活動計画の確認と検討 2. 学術論文申請書の提出方法と期限の設定 3. 委員会活動の役割分担 4. 英文校正の担当依頼について	
2	2019年8月9日（金）	1. 学術論文申請状況の確認 2. 申請論文の委員担当決定 3. 論文提出チェックシートの見直し	
3	2019年9月25日（水）	1. 投稿論文の査読者の決定 2. 論文に対するイニシャルチェック 3. 訂正が必要な論文の返却の手続き	
4	2019年10月3日（木）	1. 訂正があった論文の内容確認 2. 執筆者への論文受理通知の発送 3. 査読者への論文発送作業と期限の決定	
5	2019年11月1日（金）	1. 査読者からの論文返却の確認 2. 執筆者への論文返却作業	
6	2019年11月29日（金）	1. 査読後修正論文の受理と確認 2. 再査読のための査読者への発送作業 3. 英文校正の依頼	
7	2019年12月25日（水）	1. 査読者からの論文返却（再査読）の確認 2. 執筆者への原稿返却作業と修正提出の依頼 3. 出版社への見積もり依頼	実習期間により学内 にいる委員で対応
8	2020年1月27日（金）	1. 執筆者からの論文提出確認（最終版） 2. 掲載順の決定 3. 投稿規定の見直し 4. 印刷業者との打合せと校正作業	2月の教授会で投稿規 定の改訂が承認され た
9	2020年2月12日（水）	1. 論文校正1回目：執筆者へ論文返却	実習期間により学内 にいる委員で対応
10	2020年2月21日（金）	1. 論文校正の確認と印刷業者への返却作業 2. 製本の表紙等校正と確認	
11	2020年3月5日（木）	1. 論文校正2回目：執筆者へ論文返却	実習期間により学内 にいる委員で対応
12	2020年3月12日（木）	1. 校正2回目の原稿確認 2. 印刷業者へ原稿の引き渡し作業 *3/16（月）最終原稿の引き渡し	実習期間により学内 にいる委員で対応

4. 委員会総括

前年度の委員会から、ホームページ上のテーマ投稿が可能となり論文投稿の周知から始まった。投稿は11件ありホームページ上の投稿に問題はなかった。

原稿の締め切りが間に合わないという理由で執筆者から論文の取り下げが1件あり残念

であった。次年度は、4月当初より年間の論文投稿期日などを周知しておく必要がある。

委員会では昨年度に習い、原著と研究ノートの種別に対し外部の査読者を選定し依頼した。ただ、査読に際し論文種別の決定において定義がわかりにくいというご指摘があり、また執筆者からも種別変更に伴うページ数の増減への対応に苦慮する意見が寄せられた。これを受け、委員会で投稿規定の見直しをはかった。結果、「実践研究」を廃止し、総説から資料までのページ数を9ページへと統一する改訂を行った。2月の教授会で承認され、次年度4月より施行予定である。

また英文校正においては、これまでのご担当者からの辞退を受け、次年度より本学研究科にご着任の竹村先生へ依頼した。

査読者及び校正者・執筆者の期日厳守の協力のもと、年次計画通りの委員会活動となり、年内の学術誌発行に至ったことは最大の成果であった。このことから委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-8. 広報委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：間文彦
- 2) 委員：出石万希子，栗原はるか，小林菜穂子，今井恵，中村美由紀，大塩佳名子，川橋けい子，村田真由子

2. 所掌事項

- 1) 看護学部の広報活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること
- 2) 高校訪問、オープンキャンパス等の計画、実施に関すること
- 3) ホームページの企画・記事記載に関すること
- 4) 高大連携事業の運営に関すること

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題・内容等
1	2019年4月13日(土)	1. 広報委員会の役割分担と目標について 2. 2019年度大学案内パンフレット作成状況 3. オープンキャンパスの日程 4. 高校訪問、模擬授業の予定 5. ホームページ・フェイスブック掲載年間予定 6. 新入生のアンケート結果
2	2019年5月8日(水)	1. 全学広報委員会報告(予算・年間計画) 2. 2020年度オープンキャンパス企画検討 3. 高大連携(八幡高等学校) 4. パンフレット作成などにおける写真撮影
3	2019年6月5日(水)	1. オープンキャンパスの運営について 2. 広報委員会予算確定 3. ホームページの更新について
4	2019年7月3日(水)	1. オープンキャンパスについて 2. 高校訪問(学生課との合同訪問)について 3. 入試相談事前調査票項目について
5	2019年7月26日(金)	1. 8月3日、4日のオープンキャンパスの流れの確認 2. 高校訪問の結果(7月実施分) 3. 八幡高校高大連携の運営について 4. ホームページのディスプレイ広告
6	2019年9月4日(水)	1. 今年度のオープンキャンパスの総括 2. 高校訪問について(人間学部、事務との役割分担) 奨学金のチラシ、看護学部ミニパンフレット作成(学生課との共同作成) 3. 入試対策講座について 4. パンフレットについて 5. 予算について 6. 八幡高校との高大連携講座調整会議について
7	2019年10月2日(水)	1. オープンキャンパスの日程について 2. 次年度予算 3. 高校訪問について 4. パンフレットの進捗 5. 入試相談会の結果評価 6. 八幡高校との高大連携講座について 7. 学生広報委員会について 8. リクルート偏差値マネジメント学習会

年次報告書（2019年）委員会

8	2019年11月6日（水）	1. 入試相談会時のミニオープンキャンパスについて 2. 八幡高校との高大連携講座の調整 3. パンフレットの内容調整
9	2019年12月3日（火）	1. キャンパスライフレポート 2. パンフレットの進捗 内容調整と教員への依頼事項の確認 3. 3月オープンキャンパス内容の確認
10	2020年1月8日（水）	1. 全学広報委員会から次年度予算と計画について 2. 今年度の事業実施内容と次年度計画について 3. 3月のオープンキャンパスについて 4. 入学生へのアンケートについて 5. パンフレットの進捗と内容確認
11	2020年2月5日（水）	1. パンフレットの進捗と内容確認 2. 3月オープンキャンパスについて 3. 予算について
12	2020年3月18日（水）	1. パンフレットの進捗と内容確認 2. 2020年度高大連携講座の報告 八幡高等学校連携講座会議の報告

4. 委員会総括

今年度は、全学広報委員会において、人間学部、学生課、事務部との調整を行い、大学教育評議会で議案を審議し、事業を実施してきた。高校訪問やオープンキャンパスの内容、日程、役割分担を行い、学生広報委員会を加え、学生広報委員会を開催し学生の意見も反映した効果的な運営を進めてきた。オープンキャンパスでは、別科助産学科、看護学研究科との調整を図った。委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-9. キャリアアップセンター

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：流郷千幸
- 2) 委員：井之口文月，鈴木美佐，山根加奈子，中村美由紀，川橋けい子，馬場好恵

2. 所掌事項

- 1) キャリアアップ講座ビギナーコース・アドバンスコースに関する事項
- 2) 卒業生研修会に関する事項

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題・内容等	備考
1	2019年4月18日(木)	1. 委員会の役割分担・活動計画 2. キャリアアップ講座(ビギナー・アドバンス) 3. 卒業生研修会 4. 活動報告	
2	2019年5月24日(金)	1. 第1回ビギナーコース振り返り 2. 大学内の情報配信について 3. 講師対応・資料保存について	第1回ビギナーコース 23名
3	2019年6月12日(水)	平成31年度 看護学実習施設管理者・指導者会議で活動報告書を配布	
4	2019年6月18日(火)	1. 第2回ビギナーコースのタイムスケジュール・役割分担 2. アドバンスコースの申込状況・決定通知	
5	2019年6月24日(月)	1. 第2回ビギナーコース振り返り 2. アドバンスコースの申込状況	第2回ビギナーコース 24名
6	2019年7月16日(火)	1. 第2回ビギナーコースアンケート結果 2. 第3回ビギナーコースのタイムスケジュール・役割分担 3. 個別研究サポートの領域配分 4. アドバンスコース 5. 卒業生研修会の講師依頼	
7	2019年7月22日(月)	1. ビギナーコースの振り返り 2. アドバンスコースの申込み状況	第3回ビギナーコース 24名 (院生 5名)
8	2019年8月22日(木)	1. 第3回ビギナーコースアンケート結果 2. 第4回ビギナーコース 3. アドバンスコース 4. 卒業生研修会	
9	2019年8月29日(木)	1. 第4回ビギナーコース振り返り 2. アドバンスコースの最終確認	第4回ビギナーコース 24名
10	2019年8月30日(金)	1. アドバンスコースの振り返り 2. 卒業生研修会	アドバンスコース 10名 (院生 5名)
11	2019年11月13日(水)	1. 卒業生研修会の案内文発送・講師依頼 2. 2019年度活動報告書作成	
12	2019年12月11日(水)	1. 2019年度活動報告書作成 2. 卒後生研修会・懇親会の案内文 3. 2019年度予算	

年次報告書（2019年）委員会

13	2020年 1月15日（水）	1. 卒業生研修会・懇親会 2. 2019年度 活動報告書の執筆・印刷工程 3. 2020年度 講座日程の決定	
14	2020年 2月14日（金）	1. 卒業生研修会役割分担 2. 2020年度年間計画（案）検討 3. 2019年度活動報告書の内容確認	
15	2020年 2月25日（金）	新型コロナウイルス感染症対策本部員会議を受け、卒業生研修中止の決定を行い、中止の案内を対象者と講師に発送	
16	2020年 3月18日（水）	1. 2020年度キャリアアップ講座案内状の発送準備 2. 委員会総括	
17	2020年 3月19日（月）	2020年度キャリアアップ講座案内状発送	124部

4. 委員会総括

「キャリアアップ講座ビギナーコース・アドバンスコース」参加者のアンケート結果は好評価であった。また、第4回の研究サポートを各教員によるグループ指導形式にしたことで参加者の満足度が高まった。パソコンの習熟度に合わせてコース選択制を設け、参加人数を定員（25名）としたことで、より密な指導体制が提供できた。年度最終の委員会では、委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-10. 技術項目検討委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：中島真由美
- 2) 委員：西山ゆかり，桶河華代，村井博子，高島留美

2. 所掌事項

- 1) 卒業時到達目標の検討
- 2) 卒業時技術チェックの企画・運営に関すること

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題・内容等
1	2019年6月4日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術項目委員会活動内容の確認 2. 4年次卒業時技術到達度チェックについて <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組み予定と次年度の変更点（キャリア教育に含まれること）を確認した。 3. 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・「表2 看護実践能力の卒業時の目標」を見直すことを確認した。
2	2019年9月5日(木)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年次卒業時技術到達度チェックについて <ul style="list-style-type: none"> ・実施日程の確認と、担当者、準備等今後の進め方を確認した。 2. 「表2 看護実践能力の卒業時の目標」について <ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方について、表の見直しの基準と、今後の日程を確認した。
3	2020年1月6日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年次卒業時技術到達度チェックについて <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容、準備、教員説明日程、学生への連絡日程について確認した。 2. 「表2 看護実践能力の卒業時の目標」について <ul style="list-style-type: none"> ・今後の集計にかかる日程を確認した。 3. 2021年度予算(案)について
4	2020年2月4日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年次卒業時技術到達度チェックについて <ul style="list-style-type: none"> ・準備と実施後の評価について確認した。 2. 「表2 看護実践能力の卒業時の目標」について <ul style="list-style-type: none"> ・入力内容を確認し、教授会で提出すること、表1を含めた今後の活用について検討していく必要性を確認した。
5	2020年3月16日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間の委員会活動の総括 <ul style="list-style-type: none"> ・年間活動の総括と次年度への課題を確認した。

4. 委員会総括

- 1) 4年次卒業時技術到達度チェックについて
 - ・今年度の実施内容は昨年度までの実施内容を踏襲して実施した。参加者数が卒業生67人中38人と少なく、今後の学生への周知方法の見直しが必要である。実施後の卒業生のアンケート結果からは、アセスメントし実践することを捉えなおし、技術を振り返る機会となり、参加してよかったとの意見が多く見られた。
 - ・次年度よりキャリア教育Ⅳの授業に含まれる予定となっており、教務委員会への協力が必要であることを確認した。
 - ・卒業時の到達度としてどのような技術をチェックするのか、卒業時の到達目標に関する「表1(技術項目と担当領域の区分(講義・演習・実習))」「表2(看護実践能力の卒業時の目標)」との関連を整理する必要性を確認した。
- 2) 「表2 看護実践能力の卒業時の目標」について

- ・日本看護系大学協議会が平成30年に公表した「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」における「表2 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標および教育内容（例）」を参考に、本学における「表2 看護実践能力の卒業時の目標」を見直し、修正した。
- ・見直した表をもとに、看護学部教員の協力を得て、授業内容に含まれているかどうかを科目ごとにチェックを付けた一覧表とした。
- ・今後は、この「表2（看護実践能力の卒業時の目標）」をどのように活用するかを検討していく必要がある。

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。卒業時の到達目標をどのように活かし学生へ還元するかについて検討する必要があることを確認し、表1、表2の活用が次年度に取り組む課題であることを確認した。

2019 年度
聖泉大学人間学部
年次報告書

学部教員・委員会

学部教員活動
(2019年4月～2020年3月)

(以下、学部のメンバーの氏名は下線で示してある)

1. 教育活動

李艶 教授

前期

「基礎ゼミ C」「実用中国語 A②」「産業・組織心理学」「リスク・危機管理心理学」
「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習」

後期

「心理学概論 B」「社会・集団・家族心理学」「異文化間心理学」「専門演習 B」
「専門演習 D」「プロジェクト演習」

特記：

1年：「実用中国語 A-2」にて、初めての外国語の学習不安を解消するため、カウンセリングを行って授業を進めた。

「心理学概論 B」

三年編入留学生が日本にきてすぐこの「心理学概論 B」を履修することとなつて、彼らにとってハードルが高いことです。さらなる工夫が必要で、今まで以上に授業前後の課題の指示と資料の配布、動画説明資料の準備をし、学生の理解度を高めた。96の履修者はわずか数人を除いて、ほとんど合格した。

2年：「基礎ゼミ C」

李ゼミのミニ体験授業を行い、さらに文献研究について指導した。

3年：「専門演習 A・B」にて研究テーマの設定、文献研究、研究方法、研究計画書のまとめに関する研究指導を行った。

「プロジェクト演習 A・B」にて SDGs の基本的な考えを踏まえて地域貢献活動に関する課題に取り組んだ。

4年：「専門演習 C・D」および「卒業研究 I・II」にて、卒業研究を指導し、卒業研究論文を完成させた。

「プロジェクト演習 C・D」にて、「ビワイチ」の自転車観光の環境整備や誘致に提言するプロジェクトの成果を、①自転車ルートの実体験、②周辺の環境の現地調査、③若い人の視点から自転車観光の環境整備や誘致について提言する、三つをまとめて紹介するレポートを作成し、学生の居住する地域への頒布を指導した。

押岡大覚 准教授

1年：「人間関係論」にて、臨床心理学及び発達心理学の視点からの講義を行った。

2年：「基礎ゼミ D」にて、心理療法家として備えておくべき倫理についての学習機会

を提供した。

「感情・人格心理学」にて、主に精神分析的な人格理論についての講義を行った。

「心理学基礎演習Ⅱ」にて、研究及び研究レポート作成の機会を提供した。

3年：「専門演習A・B」にて、研究指導を行なった。

「プロジェクト演習A・B」にて、地域貢献活動を行った。

「青年心理学」にて、精神分析的視点からの講義を行った。

4年：「専門演習C・D」および「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」にて、研究指導を行った。

「プロジェクト演習C・D」にて、地域貢献活動を行った。

「心理実践職能倫理」にて、心理療法家として備えておくべき倫理についての学習機会を提供した。

多胡陽介 准教授

1年：「スポーツ科学入門」にて最新のスポーツ科学の情報を伝えられるよう心掛けた。

2年：「基礎ゼミC」にて認知症予防エクササイズについて演習させる。

また「基礎ゼミC・D」の担任として受け持つ

「健康運動実習C（体力測定・応急処置）」では、年齢に応じた様々な体力測定を紹介し、実際に測定できるように指導した。

3年：「専門演習A・B」にて研究指導を行なった。今年度は認知症予防と運動の関係について理解を深めた。「プロジェクト演習A・B」にて近江楽座に申請し、認知症予防啓発プロジェクトを行った。また、地域における健康増進事業を学生とともに実施した。

健康運動実践指導者資格の実技試験対策などを行った。

4年：卒業研究Ⅰ・Ⅱの副査を担当

森雄二郎 講師

【担当科目】（14科目）

（1年次）

基礎ゼミA・B／キャリアデザインA（地域共生論含む）

（2年次）

基礎ゼミD

（3年次）

専門演習A・B／プロジェクト演習A・B

（4年次）

専門演習A・B／プロジェクト演習C・D／卒業研究Ⅰ・Ⅱ

【担当ゼミ生の卒業論文題目】

「地域子育て支援センターの現状と課題に関する一考察－母親を対象としたアンケート調査から－」

「指導者の声かけと選手評価との関連性について」

「地域おこし協力隊の成果と課題に関する一考察—地域おこし協力隊員の語りから—」

「アスリートのライフスキル獲得に向けた方略を考える—大学アスリートを対象としたアンケート調査から—」

「日本語ボランティアの活動継続の動機づけに関する研究—日本語ボランティアの語りを通して—」

山越章平 講師

1年：「基礎ゼミ A」にて大学生活への導入指導を行った。

「基礎ゼミ B」にて大学での学修における基礎訓練指導を行った。

「スポーツ科学入門」にて、スポーツとこころの関係についての講義を行った。

2年：「基礎ゼミ C」にてスポーツ心理学に関する演習授業を行った。

「スポーツ心理学」にてスポーツ心理学に関する基礎的知見を紹介した。

「健康管理学」にて、スポーツ・運動と健康の関係について講義を行った。

「フィットネス・トレッキング演習」にて登山演習を行った。

3年：「コーチング論」にてスポーツの指導・実践についての講義を行った。

4年：「専門演習 C・D」および「卒業研究 I・II」にて研究を完成させた。

「プロジェクト演習 C・D」にて研究成果を紹介する冊子を作成し、学生の居住する地域への頒布を指導した。

山口隆介 講師

1年：「基礎ゼミ A」にて大学生活への導入指導を行う。

「アカデミックライティング A」にて、レメディアル教育を兼ねた文章力指導を行う。

「基礎ゼミ B」にて大学での学修における基礎訓練指導を行う。

「哲学」にて自分の思考の根本に遡る姿勢を養う。今年度は特に授業開始当初から、課題の評価基準をルーブリックで具体的に示し、レポート課題において指導者が養成を企図している能力が何なのかを学生に分かるよう取り計らった。そして当初の目標が達成されてくると評価基準を替え、自由度の高い形式にした。

「世界史」にてグローバルヒストリーの観点で地球の歴史を見直させた(一部ビッグヒストリーの視点で宇宙の歴史までリンクさせることを試みた)。

2年：「基礎ゼミ C」にて古典の解釈を体験演習させる。

また「基礎ゼミ C・D」で留学生を担任として受け持つ。

3年：「専門演習 A・B」にて研究指導を行なった。今年度は図書館および CiNii を利用しての資料収集力を重点的に養った。

「プロジェクト演習 A・B」にて地域貢献活動計画を練らせた。

4年：「専門演習 C・D」および「卒業研究 I・II」にて研究を完成させた。

「プロジェクト演習 C・D」にて研究成果を紹介する冊子を作成し、学生の居住する地域への頒布を指導した。

2. 研究活動

李艶 教授

●研究活動

【学術論文】

共著 李艶・安岡 秀竜

「大学生のやる気とその影響要因についての研究」 『聖泉論争』第 27 号

【学会発表】

単独：

「自己肯定感と人のかかわりの関係についての研究 I」

日本心理学会 83 回大会（ 2019 年 9 月 13 日 立命館大学大阪いばらきキャンパス ）

論文集 ID: 3D-057

【国際学術シンポジウム】

単独発表：

「文化心理学視点から、アジアとヨーロッパの移民について考える」

共同研究成果の披露 2019 年 9 月 16 日 フランスパリ大学心理学部にて

【日本心理学会研究会活動】

2019 年度 公益法人日本心理学会の「文化と心理学研究会」の代表として、研究活動の運営・企画を行った。

2019 年は「女性」をキーワードとして取り上げ、共同研究を行った。

2019 年 11 月 22 日聖泉大学で日本心理学会「文化と心理学研究会」第 14 回全国公開講演会を開催しました。

【全国公開講演】

1. 【女性の地位向上のために ―與謝野晶子の教育思想と「源氏物語」―】

(平子恭子氏)

2. 研究会講演会のテーマ：

【ジェンダとは ―文化心理学視点からの一考察―】

2019 年 12 月 21 日 キャンパスプラザ京都

炭谷将史 教授

(競争的研究資金) (単独)

科学研究補助費 (基盤C) 「園庭環境の変化が遊び行動に及ぼす影響: エコロジカルマップによる遊びの可視化から」 研究課題/領域番号19K02631

(学会発表)

Sumiya, M. & Okuda, E. (2019) The design of playground matters for the young children's play. *The Conference of Pacific Early Childhood Education Research Association*, 2019/07/13.

脇本忍 准教授

論文

共著

沖縄におけるインバウンド市場調査= 中国人観光客の消費者行動とSNSの関係性=
2019年3月30日, 聖泉論叢第26号

共著

滋賀国際映画祭論-まつり・映画祭・PBLの視点から-
2019年3月30日, 聖泉論叢第26号

単著

インバウンド観光客の社会的態度調査-大型旅客船観光客の那覇上陸後行動
2019年9月20日, 沖縄文化出版vol. 11

学会発表

沖縄サブカルチャーの変遷と創造価値2.
2019年3月19日, 沖縄現代文化研究会第9回大会, 那覇てんぶすホール

新聞連載

落語で楽しむ心理学, 八重山日報 週刊連載コラム, 2019年1月~12月

谷口麻起子

【学会発表】

日本ロールシャッパ学会第23回大会 一般口頭発表 (事例) 座長
2019年9月22日 (日) 京都大学 吉田キャンパス

第23回日本摂食障害学会学術集会 看護・その他 座長

2019年11月2日 (土) 国立精神・神経医療研究センター

【著書】

こころの科学 209号「特別企画 摂食障害の生きづらさ」

「カウンセリングで表現される摂食障害の生きづらさ」78-82

押岡大覚 准教授

1)種別：論文

単著・共著の別：共著(ラスト) [学部生(ゼミ生)との共著]

題目：「テキストマイニング及び多変量解析を用いた“つながり”の構成概念に関する研究」

掲載雑誌：聖泉論叢 第27号 pp.67-78

発行年月日：2020年3月31日

<助成金による研究活動>

1) 聖泉大学学長裁量経費

多胡陽介 准教授

- ・学会参加（日本体力医学会、日本体育学会）
- ・ Relationship between ground reaction force and lower limb movement during effective tackle motion in rugby football players（執筆・投稿中）
- ・ 京都工芸繊維大学大学院 博士後期課程 合格

森雄二郎 講師

【研究発表】

2019.12.1 日本ソーシャル・イノベーション学会年次大会 研究・実践報告分科会「政策とイノベーション」モデレーター

【学会活動】

日本ソーシャル・イノベーション学会年次大会 実行委員会

【外部資金による研究活動】

同志社大学人文科学研究所第20期部門研究会「ソーシャル・イノベーション学構築に向けた総合的研究」（代表者：今里滋） 研究分担「多文化共生におけるソーシャル・イノベーション研究」

彦根市「国際理解教育推進事業」

布井雅人 講師

(口頭発表)

布井雅人・吉川左紀子・中澤篤志 (2019). 介護ベッド上での対人認知—接近者の視線方向と観察者の体勢の影響—. HCGシンポジウム2019, 広島, 12月11日

(ポスター発表)

布井雅人・吉川左紀子 (2019). 対象についての他者の評価が選好判断に及ぼす影響, 日本認知心理学会第17回大会, 京都, 5月26日

山越章平 講師

<論文>

1) 種別：論文

単著・共著の別：共著（ファースト）

題目：「大学生アスリートにおける反芻・省察と心理的競技能力の関連」

掲載雑誌：聖泉論叢 第27号（2020年3月発行予定）

<助成金による研究活動>

1) 科学研究費（2019年4月～2021年3月まで）

題目：「大学生アスリートにおける反すう特性・省察特性、対人関係の良好さ、精神的健康の関係」

山口隆介 講師

1)種別：論文

単著・共著の別：共著(サード)

題目：「チェスタトン『ブラウン神父』に見るキリスト教哲学（前半）」

掲載雑誌：聖泉論叢 第27号 pp.105-122

発行年月日：2020年3月31日

2)種別：研究ノート

単著・共著の別：単著

題目：「チェスタトン『ブラウン神父』に見るキリスト教哲学（後半）」

掲載雑誌：聖泉論叢 第26号 pp.123-140

発行年月日：2020年3月31日

3. 地域貢献

多胡陽介 准教授

令和元年11月16日、公開講座「自然に親しみ、健康づくりウォーキング」

聖泉大学万聖祭にて講師を務める。

令和元年 11 月 13 日・27 日 南老人福祉センター主催の地域住民のための講座「スマイル健康講座」にて体力測定とノルディック・ウォーキングの講師を務める。

本学地域連携交流センター主催の「健康づくりリーダー養成講座」のコーディネーターを務める。

聖泉版・近江楽座2019にて「認知症予防啓発プロジェクト」として、いずみ健やか塾メンバーと多胡ゼミ学生が共同して、地域のサロンや学園祭で啓発活動を実施した。

森雄二郎 講師

【委員会活動】

彦根市 行政評価委員会 委員長

彦根市 多文化共生推進委員会 委員長

彦根市教育委員会 点検評価委員会 委員長

【研修講師・出前授業等】

(研修講師)

2019.7.9 彦根市 人権連続講座「多文化共生を考えるー外国人住民の現状と課題からー」

2019.7.21 四日市市 「外国人生徒を対象とするキャリアデザイン講座」

2019.10.19 彦根市市民学習会（稲枝地区） 「多文化共生とは何か」

2019.11.30 定時制高等学校（近畿ブロック）交流集会 「外国人児童生徒の現状と課題について」

2020.1.27 彦根市 人権研修会 「在留外国人の権利と義務をめぐる問題を中心にして」

2020.1.31 社会福祉法人びわこ学園 職員研修「職場のより良いコミュニケーションを目指して」

(高校への出前授業)

2019.7.17 河瀬高等学校 人権研修会 「多文化共生社会に向けて」(2年生対象)

2019.7.18 彦根翔西館高等学校 総合学習「異文化理解を深めよう」(2年生対象)

2020.1.22 彦根工業高等学校 人権研修会 「外国人の人権について」(1年生対象)

2020.2.10 長浜北高等学校 人権研修会 「外国人の人権について」(1年生対象)

山越章平 講師

- 男子サッカー部監督：男子サッカー部の指導を行った。また、学生募集のために関西や関東、東海地方の高校に訪問した。
- 2019年5月29日、日吉ヶ丘高校にて、「お金・仕事と幸福感の関係」についての分野別模擬授業を行った。
- 2019年8月18日、聖泉大学オープンキャンパスにて、「こころの健康を高める方法」についての模擬授業を行った。
- 2019年9月28日、「彦根長浜地域連携プラットフォーム」にて、「お金・仕事と幸福感の関係」についての講義を行った。
- 2019年12月3日、「健康づくりリーダー養成講座」にて、「運動の心理的効果と運動継続の方法」についての講義を行った。

山口隆介 講師

9月28日、聖泉大学「SDGsを通して～学び・集い・語りあう～」にて、公開講座「「チェスタトン「ブラウン神父」シリーズに見出すキリスト教哲学」を講ずる。

不定期ながら、彦根市中地区公民館にて毎月曜19:00～21:00に実施される適応教室にボランティア参加。

聖泉版・近江楽座2019にて「Genius Loci再活用プロジェクト」の一環として、学生有志と共に市内某自治体の祭り盛り上げに協力参加。また、地域に頒布するための報告書を印刷。

委員会活動
(2018年4月～2019年3月)

2-1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：谷口麻起子
- 2) 委員：唐楽寧、富川拓、多胡陽介、布井雅人、山口隆介、川並真由美、大村一美

2. 所掌事項

- 1) 教育事務に関わる業務
 - ・カリキュラムに関わる業務
 - ・時間割作成・授業担当者決定に関わる業務
 - ・履修登録に関わる業務
 - ・授業に関わる業務
 - ・試験に関わる業務
 - ・成績評価・単位認定に関わる業務
 - ・進級に関わる業務
 - ・卒業研究に関わる業務
 - ・卒業判定に関わる業務
- 2) 学籍に関わる業務
- 3) 学年暦に関わる業務
- 4) 科目等履修生・聴講生・研究生に関わる業務

3. 委員会活動

4月	前期受講状況調査 第1回 期間：4/8～5/10 期限：5/11 第1回委員会（4/9） 議決：上記前期受講状況調査実施 協議：基礎ゼミ CD の担当のありようについて 第2回委員会（4/23） 議決：JR 琵琶湖線不通時の臨時休講は学長判断・前期定期試験実施要項確定 （再試験対象者発表日は8/22） 協議：実習・演習科目履修生の健康状態の確認
----	--

5月	<p>前期受講状況調査 第2回 期間：5/13～5/31 期限：6/7</p> <p>第3回委員会（5/14） 協議：学生の個人情報の取り扱い・感染症についての報告プロセスについて。 審議：卒業研究の副査確定</p>
6月	<p>第4回委員会（6/4） 協議：学生の個人情報の取り扱い・感染症についての報告プロセスについて。</p> <p>第5回委員会（6/25） 審議：後期ガイダンス日程確定 協議：PROGテストの受検結果利用に関する同意書について</p>
7月	<p>第6回委員会（7/2） 審議：研究生募集要項 協議：PROGテストの受検結果利用に関する同意書について</p> <p>第7回委員会（7/23） 審議：卒業研究I報告書の評価基準について 報告：学生の状況</p>
8月	<p>第8回委員会（8/6） 審議：再試験について①国体②インターンシップ参加学生への対応 報告：学生の状況</p> <p>第9回委員会（8/20） 審議：2019年度秋卒業卒業判定・前期成績・保護者面談 報告：卒業研究I中間報告書の評価について</p>
9月	<p>第10回教務委員会（9/5） 審議：長期履修制度について。研究生入学判定。 報告：再試験の追試験 協議：次年度カリキュラムについて。GPAの算出方法検討。</p> <p>第11回委員会（9/17） 審議：後期ガイダンス 報告：学生の状況</p> <p>第12回委員会（9/25） 審議：成績修正の期限 報告：授業担当者の追加 協議：次年度カリキュラムについて</p>
10月	<p>後期受講状況調査 第1回 期間：9/30～10/18 期限：10/20</p> <p>第13回委員会（10/1） 審議：学籍異動</p>

	<p>協議：2020年度カリキュラム</p> <p>第14回委員会</p> <p>審議：学籍異動</p> <p>報告：後期不開講科目</p>
11月	<p>第15回委員会（11/5）</p> <p>審議：PROGテストの実施について</p> <p>報告：学生の状況</p> <p>協議：次年度科目の担当案</p> <p>第16回委員会（11/26）</p> <p>審議：女子サッカー部の公欠（全日本選手権参戦）</p>
12月	<p>第17回委員会（12/3）</p> <p>審議：次年度科目担当案、他学部、大学院・別科からの科目以来、次年度履修要項改訂</p> <p>第18回委員会（12/24）</p> <p>審議：2020年度担当者、成績通知履修登録</p> <p>報告：シラバス作成要項</p> <p>協議：進級要件、編入留学生用カリキュラム</p>
1月	<p>第19回委員会（1/7）</p> <p>審議：履修要項修正、秋入学生の既習得単位認定</p> <p>報告：シラバスの作成について、学生の状況について</p> <p>協議：進級要件、編入留学生用カリキュラム</p> <p>第20・21回委員会（1/28および1/29）</p> <p>審議：履修要項修正、天部及び社会人編入生への対応</p> <p>報告：シラバスチェックについて</p> <p>協議：進級要件、必修科目の主担当について</p>
2月	<p>第22回委員会（2/4）</p> <p>審議：進級要件、卒業論文の保管</p> <p>報告：ゼミ配属、シラバスチェックについて</p> <p>第23回委員会（2/19）</p> <p>審議：卒業判定、2020年度時間割、2020年度2年生のクラス分けと担当割り振り</p> <p>報告：転学部希望者について</p> <p>協議：中長期目標。定期試験に関する取り決めの学部間での相違。</p>
3月	<p>第24回委員会（3/3）</p> <p>審議：2020年度時間割、新入生ガイダンス</p> <p>報告：Active Academyでの履修登録手順について</p>

	協議：新型肺炎拡大に伴う対応
--	----------------

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：脇本忍
- 2) 委員：李艶、小澤克彦、山越章平、那須由美子

2. 所掌事項

- 1) 学生生活に関わる業務
 - ・学生の自主活動(課外活動・ボランティア等)に関わる業務
 - ・学生の自治に関わる業務
 - ・学生の団体(クラブ・同好会等)に関わる業務
 - ・学生の健康に関わる業務
 - ・学生の安全にかかわる業務
- 2) 奨学金(外部)にかかわる業務
- 3) 学長表彰・学長奨励表彰にかかわる業務

3. 委員会活動・総括 3. 委員会活動

4月	第1回委員会(全学学生委員会を兼ねて行われた)
5月	第2回委員会(5/8) 議決：2018年度学長表彰 2年生：20186005 大谷琉晏 3年生：20176004 泉祥太 4年生：20166031 万里川範子 学長奨励表彰の推薦依頼を教員に出す。締切は5/14 協議：業務分担確定 全学学生委員会(5/21・第2回) 審議：学友会会則、学生表彰規程の改定。表彰者選考。 協議：2019年度クラブ顧問委嘱 報告：2018年度決算報告・2019年度予算
6月	学生対応等平常業務 6月5日(水)：全学学生委員会にてメール審議：男子サッカー部設立←可決
7月	学生対応等平常業務
8月	学生対応等平常業務
9月	学生対応等平常業務
10月	第3回委員会(10/29) 協議：2019年度第35回万聖祭役割分担

	報告：万聖祭進捗状況
11月	第4回委員会（11/29） 協議：モラル向上に関する巡回指導について、学友会への積極的な入会の促進について、2020年度卒業パーティ会場の件、2020年度新入生オリエンテーション合宿について、学生駐車場が曜日によって満車となっている件について
12月	学生対応等平常業務
1月	第5回委員会（1/14） 協議：新年度入学生オリエンテーションのタイムスケジュール、危機管理のためのガードマン設置
2月	学生対応等平常業務
3月	学生対応等平常業務

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-3 進路支援委員会

1. 構成メンバー

委員長：炭谷将史、委員：方蘇春、多胡陽介
 学生課長 那須由美子 同課 徳島佳代

2. 所掌事項

学生の進路支援に関わる業務、資格取得・検定試験合格等の支援に係る業務

3. 委員会活動

4月	
5月	第1回委員会 (5/28) 協議：役割分担 報告：予算と進路状況
6月	第2回委員会 協議：4年生の学生面談、模擬面接会 報告：委員会予算、4年生の進路状況、6月30日開催のインターンシップ(マイナビ)バスツアー、採用試験報告書の回収、2年生へのインターンシップの周知について
7月	第4回 (7/23) 協議：4年生の面談状況・進路決定状況、「就職ガイドブック」の記載内容について 報告：マイナビインターンシップのバスツアー、Hikone Work Academy(彦根商工会議所青年部)、進路支援に係る各学年への対応について
9月	第5回 (9/3) 協議：後期進路支援について 報告：進路状況について 行事：9/5 彦根商工会議所青年部中間報告会
10月	第6回 (10/29) 協議：滋賀県内企業のPR動画の投影について 報告：4年生進路状況。後期進路支援状況
11月	第7回委員会 (11/26) 協議：滋賀県内企業のPR動画の投影について 報告：4年生進路状況。Hikone Work Academy 最終報告会 実施工事：11/21 Hikone Work Academy 最終報告会 11/23 マイナビインターンシップフェア
12月	第8回委員会 (12/24) 審議：次年度予算案 報告：4年生進路状況 行事：12/17 模擬合同企業説明会 12/21 インターンシップ&業界研究フェア

1月	第9回(1/28) 協議：進路支援関係・資格取得関係図書の購入について 報告：4年生進路状況。ジョブメソッドにおける支援状況
2月	第10回(2/26) 協議：進路支援関係・資格取得関係図書購入、来年度以降のキャリア教育 総括 報告：4年生進路状況、3年生個人面談
3月	第11回(3/24) 審議：総括 協議：令和3年度のキャリア教育。令和2年度のジョブメソッド。 報告：4年生進路状況、資格取得状況、進路・資格関係図書購入

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。しかしながら、以下諸点の改善点を確認し、次年度に取り組む課題もしくは即時対処する課題として確認した。

- ・2018年から2019年にかけて大幅に改定がなされていたが、委員会内で改定内容の共有が十分になされていなかった。・現行のガイドブックについては、詳細に記載されているため、大きな修正はなかった。今後の課題としては、情報量が多いことからジョブメソッドなどの授業と関連して、活用方法を学生に周知・指導していく必要がある。
 - ・ホームページの掲載状況：後期以降の記事がほとんど掲載されていない。2018年から2019年にかけて大幅に改定がなされていたが、委員会内で改定内容の共有が十分になされていなかった。進路支援係の中で、どのような手続きが行われているか、担当教員とも共有した上で掲載記事を作成していく必要がある。(あるいは以前までは事務方の判断に基づいて随時掲載を行っていた。その辺りの役割分担、考え方を整理することも検討材料の1つである) 昨年度実績から見ても、2月、3月には行事が多いことから、残り僅かとは言え、とにかく掲載する方向で進める。
- (学生課から)後期、ジョブメソッドを中心に、合説、模擬面接等の事業を実施したが、HP掲載に至らなかった。ホームページは広報の役割も果たしているため、次年度は積極的に記事掲載を行う。今年度、HP掲載の手順の確認ができていなかったため、委員会にて再確認する。
- ・教員の輪番制について、枠組み自体議論せずに終わった。(来年度以降の課題)

以上

2-4 FD委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：方蘇春
- 2) 委員：李艶、小澤克彦、山口隆介

2. 所掌事項

ファカルティ・ディヴェロップメント(教育機能の向上)に関わる業務

- ・研修会に関わる業務
- ・授業アンケートに関わる業務
- ・教育力を高めるための共通意識形成に関わる業務

3. 委員会活動

5月	第1回委員会 協議：令和元年度年間計画
7月	前期授業アンケート実施
8月	全学FD研修会(8/8)に協力 8/22 人間学部FD研修会 テーマ：授業の基本（その2）－学生を授業に引き付けるコツー ※平成30年度人間学部FD研修会の続きであり補完する内容 講師：倉茂好匡（滋賀県立大 教授）
1月	後期授業アンケート実施 期間：1/7～1/25 第2回委員会 審議：人間学部FD研修会 京都大学コンソーシアムFDフォーラム(2/29～3/1)への参加呼びかけ
2・3月	京都大学コンソーシアムFDフォーラム中止

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-5 広報委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：押岡大覚
- 2) 委員：炭谷将史、脇本忍、森雄二郎、布井雅人、山越章平

2. 所掌事項

- 1) 大学広報に関わる業務
 - ・学部の活動に関わる広報
 - ・教員の活動に関わる広報
 - ・学生募集に関わる広報
- 2) オープンキャンパスに関わる業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会（4/16） 議事：大学パンフレット、平成31年度役割分担、高大連続講座について
5月	第2回委員会（5/21） 議事：オープンキャンパス、季刊誌、3系統リーフレット、 オープンキャンパスの追加日程案（学外イベントの提案）について
6月	第3回委員会（6/25） 議事：7/7 オープンキャンパス準備及び3系統リーフレットの進捗確認、 学外イベント（「心理学の館」実施案、高校訪問の代行について
7月	第4回委員会（7/16） 議事：7/27、8/3,4 オープンキャンパス、学外イベントの準備の進捗、 男子サッカー部の創部について
8月	第5回委員会（8/6） 議事：オープンキャンパス（8/3,4の報告、8/18の準備の進捗）、 学外イベント、季刊誌、男子サッカー部のチラシについて
8月	第6回委員会（8/20） 議事：オープンキャンパス（8月時点結果及び9/8準備状況）、 学外イベント、男子サッカー部のチラシ、季刊誌について
9月	第7回委員会（9/17） 議事：オープンキャンパス（参加者数推移及び10/5レジュメ確認）、 2021年度大学案内学生モデルの選出、季刊誌について
10月	第8回委員会（10/15） 議事：オープンキャンパス（参加者数報告及び11/10レジュメ確認）、

	2021 年度大学案内学生モデルの一部変更、季刊誌、 強化指定クラブ及び男子サッカー部募集に係る施策について
11 月	第 9 回委員会 (11/19) 議事：オープンキャンパス（今年度実績の分析及び来年度の日程案）、 年度別広報費の推移、3/26 オープンキャンパスの内容、 大学案内撮影スケジュールの進捗状況について
12 月	第 10 回委員会 (12/17) 議事：オープンキャンパス（3/26 の確認）、オープンキャンパス予算の 残額の有効活用（駅貼り広告の提案）、大学案内撮影進捗、 2020 年度予算要求、オープンキャンパス分析資料について
1 月	第 11 回委員会 (1/21) 議事：3/26 オープンキャンパス（チラシ等）、 オープンキャンパス参加者の分析（接触媒体や出願傾向など）、 大学案内ページ校正、2020 年度予算要求の報告について
2 月	第 12 回委員会 (2/25) 議事：学部広報委員会残予算執行、彦根市立病院ふれあいまつりへの参加、 模擬授業の割当方法の再認識、スクールビューの撮影について
3 月	第 13 回委員会 (3/10) 議事：スクールビューの撮影、彦根市立病院ふれあいまつり参加準備、 学部広報残予算の執行、新入生対象アンケートについて

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-6 入試委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：機密性が高いので秘匿。
- 2) 委員：機密性が高いので秘匿。

2. 所掌事項

入試に関わる業務

3. 委員会活動

定例委員会を行った。機密性が高いのでスケジュール等詳細は秘匿。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-7 紀要委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：森雄二郎、山越章平

2. 所掌事項

『聖泉論叢』に関わる業務

- ・『聖泉論叢』発行に関わる業務
- ・『聖泉論叢』頒布に関わる業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会（4/9）本年度スケジュールと役割分担を審議、確定。 4/26 紀要投稿希望者調査開始
5月	第2回委員会（5/7）業務状況確認。
6月	第3回委員会（6/4）業務状況確認。
7月	第4回委員会（7/2）業務状況確認 7/26 紀要投稿希望者調査終了
8月	第5回委員会（8/6）投稿希望調査結果報告。投稿希望者全員に執筆依頼。
9月	第6回委員会（9/3）印刷業者選定
10月	第7回委員会（10/1）印刷業者選定
11月	11/8『聖泉論叢』原稿回収。 第8回委員会（11/13）進行状況確認。印刷業者選定。
12月	聖泉論叢発行に向けての作業 第9回委員会（12/3）進行状況確認。
1月	聖泉論叢発行に向けての作業 第10回委員会（1/7）進行状況確認。
2月	聖泉論叢発行に向けての作業 第11回委員会（2/4）進行状況確認。
3月	聖泉論叢発行に向けての作業 第12回委員会（3/3）進行状況確認 3/20 『聖泉論叢』27号納品。学内頒布および学外頒布完了。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以上

2-8 スポーツ・身体運動支援センター

1. 構成メンバー

- 1) センター長：多胡准教授
- 2) メンバー：炭谷教授、山越講師、山堀助教、後藤助手、宮崎監督

2. 所掌事項

- (1) 学生の課外のスポーツ活動を支援するための事業
- (2) 地域スポーツ活動の振興に寄与するための事業
- (3) スポーツ振興のための研究・調査に関する事業
- (4) その他、センターの目的達成のために必要な事業

3. センター活動

4月	第1回定例会（4/23） 協議：2019年度事業、学生募集 報告：単位不足の学生、成績不振者、素行不良者、留学生の状況
5月	第2回定例会（5/28） 協議：学生募集、特別クラブの波及効果 審議：2019年度事業 報告：成績不振者、素行不良者、留学生の状況、センター予算
7月	第3回定例会（7/23）業務状況確認。 協議：学生募集、男子ホッケー部の日本リーグ参加依頼 報告：男子ホッケー部進捗状況、留学生の状況
9月	第4回定例会（9/3） 協議：学生募集、勉強会の実施 報告：男子ホッケー部の日本リーグ派遣、バス運行
11月	第5回定例会（11/14） 協議：男子サッカー部のグラウンド調整 第6回定例会（11/28） 協議：スポーツ特待生奨学金選考
12月	第7回定例会（12/7） 協議：スポーツ系の学生募集、講習会、次年度予算、スポーツ後援会の立ち上げについて 審議：スポーツ特待生奨学金の選考 報告：予算執行状況、特別クラブ試合結果、学生の学習・生活状況 第8回定例会 協議：スポーツ系特待生奨学金のチラシ配布、次年度予算、スポーツ特待生選考基準、スポーツ後援会の立ち上げについて
1月	第9回定例会（1/21）

	<p>協議：2021年度入学生の学生募集、男子ホッケー部のスタッフ体制、スポーツ後援会の立ち上げについて</p> <p>審議：学生便覧の掲載事項</p>
3月	<p>第10回定例会（3/5）</p> <p>協議：総括、2021年度入学生の学生募集、特別クラブ保護者懇談会、スポーツ後援会</p> <p>審議：滋賀レイクスターズとのタイアップ</p> <p>報告：次年度入試日程、特別クラブ学生の勉学・生活状況など</p> <p>第11回定例会（3/25）</p> <p>協議：2021年度入学生の学生募集、</p> <p>審議：総括</p> <p>報告：滋賀レイクスターズとのタイアップ、特別クラブ学生の勉学・生活状況、芝コートの状況</p>

4. 総括

センター活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上